

行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
 第十六條 路上ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂、羽子、手毬等
 ナ翫弄シ其他都テ遊戯ヲ爲シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカ
 ラス
 第十七條 露店行商及ヒ縁日商等食物其他ノ商品ヲ路
 上ニ羅列シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
 第十八條 路上ノ樹木ヲ折伐シ又ハ便所、街燈等ヲ破毀
 消滅シ溝渠下水ヲ毀損壅塞スヘカラス
 第十九條 道路橋梁及ヒ其他ノ場所ニ於テ榜示シタル
 制札、指道標ノ類ヲ毀棄汚損スヘカラス
 第二十條 通行禁止ノ榜示アル場所ヲ通行スヘカラス
 第二十一條 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊遊シムヘカ

ラス
 第二十二條 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥スヘカラス
 第二十三條 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チ若クハ
 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ囓シ又ハ驚逸セシムヘカ
 ラス
 第二十四條 人道車馬道ノ區別アル場所ニ在ツテ諸車牛
 馬ヲ人道ニ牽入レ又ハ猥リニ車馬道ヲ通行スヘカラ
 ス但シ人道ニ於テ小兒車ヲ押シ及ヒ所有者諸車牛馬
 ナ出入スルハ此限リニアラス
 第二十五條 鐵道ノ馬車軌線ニ瓦礫等ヲ置キ行進ノ妨害
 ナ爲スヘカラス
 第二十六條 街路ノ掃除ハ兩側居住人(官署及官署用地)ニ於テ

分擔シ其片側ナルハ一方居住人ニ於テ地先入間ヲ
 限リ負擔スヘシ但シ空屋空地ノ周圍ハ其所有主ノ負
 擔トス

第廿七條 橋上車馬道其他負擔者ナキ道路ノ掃除ハ區
 町村ニ於テ負擔スヘシ

第廿八條 掃除負擔ノ場所ハ日常勉テ清潔ニ掃除シ犬
 猫等ノ死屍ハ區町村ニ於テ取片付テ

第廿九條 宅前下水ノ浚渫ハ該地主(官署及官署用地ニ於
 テ負擔シ其組合持ナルハ當番者ヲ定メテ之ヲ負擔ス
 へシ但シ大下水及ヒ横切下水ハ區町村ニ於テ負擔ス

第三十條 下水ハ毎年兩度(三月四月ノ間)浚除スヘシ尤塵

芥等疏通ヲ壅塞スルキハ臨時浚除スヘシ

第三十一條 下水浚へ揚ケノ淤泥塵芥等ヲ路上ニ布キ
 又ハ路傍ニ置クヘカラス

第三十二條 炎天及ヒ風日ニハ時々路上ニ水ヲ灌クヘ
 シ但シ十二月一日ヨリ二月廿八日迄ハ午前第九時前
 午後第三時後ハ水ヲ洒クヘカラス

第三十三條 溝渠等ノ汚水其他汚穢物ヲ洗滌シタル水
 路上ニ洒注スヘカラス

第三十四條 瓦礫塵芥禽獸ノ死屍及ヒ汚穢物ヲ街路又
 ハ溝渠下水ニ投棄スヘカラス但シ冰雪ハ河海下水等
 ニ投棄シ止ムヲ得スハ時路傍ニ堆積スルハ通行ノ妨
 害ヲ爲スヘカラス

第三十五條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便

ヲ爲シ又ハ幼兒ニ大小便ヲ爲サシムヘカラス

第三十六條 此規則ニ郡ノ公道及ヒ公衆ノ通用スヘキ

都テノ私設道路ニモ亦適用スルモノトス

第三十七條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰

セラルヘシ

○街路へ軒楹ヲ突出スヘカラサル義ハ街路取締規則第一

條ニ掲載有之候處從前建設セシ軒楹ニ限リ以後修繕ノ

節必ス可取拂旨無洩告示スヘシ此旨相達候事

但修繕ノ節ハ所轄警察署へ届出検査ヲ受ケシムヘシ

全十五年十二月
乙第九號達

第二十八條 (警) 畜犬規則ニ違背シタル者

○畜犬取締規則左ノ通改定來ル七月一日ヨリ施行候條此

旨布達候事 全十四年五月甲
第廿六號布達

畜犬取締規則

第一條 畜犬ハ其主ノ住所姓名ヲ詳記シタル頭環又ハ

牌子ヲ附ケ置クヘシ

第二條 畜犬傳染病ニ罹リタル兆候アルカ又ハ狂猛ニ

シテ人畜ヲ傷害スルノ虞アル者ハ畜主ニ於テ嚴ニ之

ヲ繋留シ逃走ノ患ナカラシム可シ

但傳染病ノ兆候アルキハ速ニ所轄警察署ニ届出ツ

ヘシ

第三條 警視廳ハ其傳染病タルヲ確認スルキハ畜犬主

ト警察官吏ト立會ノ上之ヲ撲殺セシムルコトアル可シ

但撲殺シタル者ハ之ヲ燒棄セシム

第四條 畜犬ヲ失ヒ之ヲ求メント欲スル者ハ其夫小毛

色種類等ヲ詳記シ所轄警察署へ届出ツヘシ

第五條 警視廳ハ無標ノ犬徘徊スルヲ捕へ廳内ノ獸欄

ニ入レ置キ一週間畜養セシム

第六條 前條ノ迷犬其主之ヲ請フ者アレハ一日ニ付金

二十五錢ノ養料ヲ拂ハシメテ後之ヲ還付ス若シ其二

週間内ニ請フ者ナキハ警視廳ニ於テ之ヲ賣却シ以

テ養料及ヒ獸欄修繕等ノ費ニ充ツ

第七條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラ

第二十九條 (警十) 夜間十二時後歌舞音曲等其他

喧噪シテ他ノ安眠ヲ妨ケタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○(參)市街ニ於テ火ノ番ノ者夜中鉦鼓ヲ鳴シ又ハ鐵棒ヲ

曳キ候儀ハ懶眠ヲ警醒シ火盜ニ用心セシムルノ主旨

ニシテ警察ノ行届カザル時ニ在テハ全ク無益トモ難

申候得共既ニ多數ノ巡查ヲ配置シ取締筋相付候場合

ニ於テ右様安眠ヲ妨ケ候テハ大ニ警察ノ主意ニ相反

シ候儀ニ付自今鳴物不相用様諭達可致此旨相達候事

全十一年四月
乙第十號達

○(參)市街ニ於テ火ノ番ノ者鉦鼓又ハ鐵棒等ノ鳴物不相
用様諭達可致旨本年四月乙第十五號ヲ以相達置候處
拍子木相用ヒ候ハ不苦儀ニ候條此旨爲心得相達候事

全十一年十二月
乙卯三十四號達

四七一

第三十條 (廿一) 人ニ汚穢物及ヒ瓦礫等ヲ抛澆セ

シ者 街路取締規則参照

第三十一條 (廿二) 警察官ノ臨檢ヲ受スシテ改葬

又ハ合葬ヲ爲シタル者

○改葬又ハ合葬セントスル者ハ着手ノ日時ヲ記シ三日以

前ニ郡區役所へ届出ヘシ而ル時ハ警察官ヲ臨檢セシメ

候條其臨檢ヲ經サレハ執行相成サル義ト心得ヘシ此旨

布達候事 全十四年十月八號東京府

第三十二條 (廿三) 河岸地規則ニ違背シタル者

○府下朱引内河岸地規則別冊ノ通被相定候條所用致度者

ハ右規則ニ準シ別紙書式ノ通り正副三通相認可願出此

旨布達候事

但從前所用致來候者ハ本月卅日限り可願出義ト可

心得事 全九年九月十六號東京府

河岸地規則

第一章

第一條 河岸地下ハ舟楫ノ通スル水部ニ沿ヒタル地ノ

稱ニシテ從來確定セル民有地ノ外ハ人民之ヲ所有ス

ルヲ得サルモノトス

第二條 河岸地分ツテ二類トス貨物陸揚舟積ノ用ニ供

スル物揚場ヲ第一類トシ宅地其他ノ用ニ供スル地ヲ

第二類トス

第一類 官地民地ヲ問ハス從前専用或ハ共用セル

五七一

分ト雖モ更ニ官ノ明許ヲ得ヘキモノトス

第二類 官有地ハ第一類ト一般ニ更ニ明許ヲ得ヘ

キモノトス民有地ハ此ノ限ニ及ラズト雖モ水部

ニ關スル工事ヲ已ニ施セルモノ及ヒ將來施シト

スルモノハ更ニ明許ヲ得ヘキモノトス

第三條 第一類ハ之ヲ分ツテ三部トス

第一 共同物揚場 官有地第三種ヲ賦加セス官ニ

テ其區域ヲ畫シ共同陸揚舟積ノ用ニ供スルモノ

第二 臨時物揚場 官有地第三種ハ區ニテ所用ノ節

租課區入費民所用ノ節ハ地

官民トモ非常ノ土功ヲ興ス等ニテ臨時物揚場

必需トスルハ官ニテ其區域ヲ畫シ期限ヲ定メ

專用シ又ハ專用セザルモノ

第三 專用物揚場 官有地第一種 地租區入費ノ賦

官用地及民有地内ニ於テ貨物陸揚舟積等ノタメ

開設シ專用又ハ供用スルモノ

第四條 第二類ハ之ヲ分テ二部トス

第一 借用河岸地 官有地第三種 地租區入費ノ賦

物揚場ニアラズシテ宅地其他ノ用ニ供スルモノ

第二 自用河岸地 民有地第一種 地租區入費ノ賦

物揚場ニアラズシテ宅地其他ノ用ニ供スルモノ

第五條 總テ物揚場ノ用ニ供スル地ハ官民有地ヲ問

ハズ非常ノ節ハ官ニテ專用スルヲ得ヘキモノトス

第二章

第六條 共同物揚場ハ陸揚舟積ノタメ一般同等使用スルモノトス尤モ輕少ナル物ハ重大ナルモノニ便宜ヲ與ヘ重大ナルモノハ勉メテ輕少ナルモノ、便ヲ妨シ可ラス

第七條 官民ノ論ナク公益ヲ起サシカ爲メ陸揚舟積ニ其地ヲ必用トスル時ハ官ノ許可ヲ得テ廣狹ノ度ニ從テ一半ヨリ三分ノ二迄ノ地ヲ平時專用スルヲ得可シ

第八條 貨物陸揚舟積ハ日出ヨリ日没迄ヲ限ルト雖モ不得止夜間ニ至ル時ハ標燈ヲ掲出シ置ク可シ

第九條 陸揚舟積ノ物品ハ之ヲ留置クコトヲ許サス但其物品ニ依リ一晝夜以内ニ運搬シ得サルキハ持

主又ハ取扱人ノ住所姓名ヲ掲出シ置其旨ヲ所轄警察署或ハ最寄巡查派出所ヘ届出ヘシ尤モ他ノ便利ヲ妨シレト認ルキハ之ヲ取除カシムルヲ得可シ

第十條 此物揚場ニ於テ工業石ヲ碎岐シ成ハ之ヲ削リ木材ヲ鋸切シ泥土ヲ練和スルノ類

ハ勿論類似ノ件ハ片時タリトモ爲スヲ得ス
第十一條 使用ノ爲該地ヲ毀損シ又ハ塵芥汚穢物等散布シタル時ハ其使用セシモノヨリ修理及ヒ掃除ヲ加フ可シ

第三章 專用物揚場

第十二條 官用地内ニ開設スル淺草米倉、江村モノ、木貯蓄場ノ類

第十三條 人民所有地内ヘ貨物陸揚舟積ヲ爲メ設ケタルモノ

第十四條 前二ヶ條ノ物揚場専用ノ權ハ土地所有者及
トシ開設者ノ自由ナリ然レモ取締ニ關スル件ハ共同物
揚場同様タルハ

第十五條 専用セントスルモノハ圍ヒテ設ク可シ若シ
之ヲ設ケサル時ハ他ノ人民ニ使用ノ便ヲ與ヘタルモ
ノトス

第四章 借用河岸地

第十六條 第二類第一節ノ地借用免許ハ五ヶ年以内ノ
年季タルヘシ然レモ五年以上非ス假令八年三月以後免
フ其期限中使用スルノ權ヲ得ルト雖モ之ヲ賣買讓受
渡シ又ハ質入書入等一切嚴禁之ヲ背ク時及ヒ期限
ヲ過レバ免許證書ノ効ハ消滅ス可シ

第十七條 免許證書ヲ得タル時ハ即時ニ金五錢ノ手數
料ヲ納ム可シ

第十八條 借用河岸地ハ一般ニ常居トシ又ハ常居ニ
アラサルモ火焚所ヲ設ケルヲ得ズ然レモ比隣ノ景
況ニ從テ妨ケナキト官ニテ視認ル場所并官ノ明許
ヲ受ケ從來已ニ常居トナス場所ハ此限ニ非ス

第十九條 借地料ハ地價ノ百分ノ七ノ五ヲ一ヶ年ノ額
トシ免許證書ヲ得タル時ヨリ月割ヲ以テ納ム可シ
但其地價ヲ定ムルハ河岸地最接近ナル民有地五ヶ
所ヨリ少カラス十五ヶ所ヨリ多カラサル地價ノ平
均ヲ以テス

第五章 自用河岸地

第廿條 此地所々所有者ノ自由タリト雖モ左ノ箇條ヲ遵守ス可シ

一 棧橋ヲ築出スヘカラス

但水利舟行ノ妨碍トナラス且容易ニ架撤シ得ヘキモノニシテ官ノ許可ヲ得ルモノハ此限ニアラス

一 水部ニ塵芥ヲ捨ヘカラス

一 水際ヲ堅牢ニ修理ス可シ

第廿一條 河岸地ハ官有民有ノ別ナク使用地官有中及民有

所有地中其水際ヲ堅牢ナラシムル爲メ構造ヲ爲セ

シト雖モ之ヲ取除及改造シ石垣ヲ取除スルノ類木柵又ハ之

カ償ヲ得サルモノトス

但其水際ヲシテ益堅牢ナラシムル結構石垣柵ニ改造シ

ノスルヲ爲スハ妨ケナシトス

第廿二條 使用免許中若シ一般公益ノ爲メ其地ヲ返付

セシムルカ又ハ満期返付ノ時タリ其前條ニ同シ

但使用ノ都合ニ依リ石垣ヲ取除キ石階ヲ設ケ又

ハ石階ヲ取除キ石垣ヲ設ケ又ハ斷崖ノ地ヲ鋤除

或ハ在來ノ樹木等ヲ毀損セシ時ハ改造セシメ或

ハ堅牢修理ヲ加ヘシメ或ハ植付等ヲナサシメ舊

形ニ復サシムルコトアル可シ

○第一款 健康

第三十四條 (刑、四、三) 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル

三八 飲食物ヲ販賣シタル者

一三八 第三十五條 (同上) 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル
規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者

○明治七年^{十月}文部省第二十七號布達種痘規則別冊之通改

正候條此旨布達候事^{全九年四月内務省甲第八號布達}

種痘醫規則

第一條 種痘術ハ免許狀所持スル者ニ非レハ之ヲ許サ

ス

但醫術開業免狀所持ノ者並醫術ヲ以テ官省府縣ニ
服事スルモノハ此限ニ非ス

第二條 種痘醫ヲラシ者ハ師家ヨリ其術習熟ノ證書ヲ
受ケ履歷書ヲ副ヘテ地方廳ニ願出ヘシ地方廳ニ於テ
ハ檢閲ノ上免許狀ヲ與ヘ毎年兩度^{三月}當省ヘ届出シ

但從前種痘免狀ヲ得シ者ハ其履歷並免狀ヲ得タル
手續ヲ詳記シ地方廳ニ出シテ更ニ免許狀ヲ受クヘ

シ

第三條 種痘免許狀ハ之ヲ他人ニ讓ルヲ許サズ故ニ本
人其業ヲ廢スルカ或ハ死去スルキハ速ニ之ヲ返納ス

ヘシ

第四條 種痘醫タル者ハ其術ノ普及ヲ主トシ且務メテ
新鮮有力ノ痘苗ヲ撰フヘシ

第五條 種痘醫ハ接種後六七日ニ於テ必ス點檢ヲ遂ケ

善感ノモノハ第一號式種痘濟ノ證書ヲ與ヘ不善感ノ
モノハ直チニ再種シ或ハ直チニ再種シ難キモノハ其
旨趣ヲ記シテ與ヘ置後日再種ヲ怠ルヘカラサルノ旨

ヲ懇諭スヘシ

第六條 種痘醫ハ毎年兩度七月ヨリ六月マテ第二號式

ノ表ヲ製シ區戶長若クハ醫務取締ニ出スヘシ

第七條 小兒出生七十日ヨリ滿一年迄ヲ種痘ノ善期ト

ス爾後五年或ハ七年毎ニ必再三接種シテ天然痘ヲ預

防シ且前効ノ存否ヲ檢スヘシ

但近傍ニ天然痘流行スルキハ初種ノ久暫ニ關セス

必ス再種シ且其流行ノ緩急病症ノ輕重等速ニ區戶

長若クハ醫務取締ニ届出ツヘシ

第 壹 號

割 印

證

大小區村町番號

何某

男

名

齡何年何月

左何題
右何題
右種痘濟

大小區村町番號

種痘醫

姓

名

印

乙號表モ亦全シ唯
明治何年
自七月
至十二月
月ノニ變更スルヲ以テ略之

甲 第 二 號

種痘表	府縣大小區村町番號		種痘醫姓名印	明	何	一	二	三	四	五	六	合
	治	年		月	月	月	月	月	月	月	月	員
	初	善		何	何	何	何	何	何	何	何	何
	種	不		何	何	何	何	何	何	何	何	何
	善	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	感	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	感	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	善	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	感	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	不	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	善	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	感	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	感	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	善	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	感	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	不	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	善	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	感	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	
	感	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	

○今般内務省甲第八號布達種痘醫規則第一條但書ニ當ル

モノ免狀所持ニ不及ト雖モ第四條以下ハ一般ノ種痘醫
同様相心得可申候且種痘術開廢ノ節ハ其時々無遲滯届
出ヘク此旨布達候事甲全九十五年五月東京布達

○天然痘預防規則別紙ノ通相定候條其方法細目並ニ右ニ
關スル費用收集支給等ノ儀各地方ノ便宜ニ從ヒ精々
普及候様可取計此旨布達候事甲全九十五年五月内務省布達

天然痘預防規則

第一條 小兒初生七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ必ズ種痘
スヘシ若シ事故アリテ此期ニ後ルモノハ其次第ヲ醫
務取締若クハ區戸長ニ届クヘシ

但初種後五年或ハ七年毎ニ再三種ヲ試ムヘシ
第二條 種痘シタル者ハ必ズ其種痘醫ヨリ種痘濟ノ證

書請取置へシ

但天然痘變痘ニ感シタルモ本文ニ準シテ醫師ノ證書請取置クヘシ

第三條 醫務取締若クハ區戸長ハ初種ノモノ再三種ノモノ及ヒ事故アリテ種痘スル事能ハサルモノ等夫々検査シ地方廳ニ届ケ出可シ

第四條 地方廳ニ於テハ醫務取締若クハ區戸長ノ届書ヲ以テ半ケ年分ツ、取纏毎年三月九月内務省ニ出スヘシ

第五條 送籍ノ時ハ必ズ第二條ニ掲クル醫師ノ證書ヲ所持スヘシ

但滿二十五年以上ノモノ並天然痘濟ノ證據アルモ

ノハ此限ニアラス

第六條 管内ニ於テ天然痘流行スルキハ管廳ヨリ流行ノ緩急病症ノ輕重等ヲ接近ノ府縣ニ報告シ且内務省ニ届ケ出ツヘシ

第七條 前條ノ際ニ臨テハ未痘兒ハ勿論種痘濟ノ者ニ至ル迄年齢期限ヲ問ハス普ク接種セシムヘシ

第八條 第一條及ヒ第二條ノ旨ヲ遵守セス或ハ無稽ノ説ヲ唱ヘ種痘ヲ拒ミ若クハ他人ヲ蠱惑スル等ノモノハ違式註違ヲ以テ論シ罰金ヲ科ス可シ

〇市街掃除規則(滅消)及廁構造並尿管汲取規則左ノ通り相定メ來ル三月一日ヨリ施行候條此旨布達候事全十二年一月甲第四號布達但從前ノ布達等本條ニ抵觸スル者ハ廢止ト可相心得

事

第一條 廁構造并尿尿汲取規則

第一條 裏店又ハ長屋ノ總雪隠ハ左ノ方法ニ準據シテ

第一項 糞尿器ハ成ルヘク陶製ヲ用フ可シ若シ陶器

ヲ用フル能ハサルモノハ必ズ油樽ヲ用フルカ厚板

第二項 尋常ノ酒樽砂糖樽酢樽等ハ漏透ノ恐ヒアル

第三項 糞壺糞桶ノ周圍ハ板又ハ石粉石灰等ヲ以テ

排泄物ヲシテ桶壺内ニ能ク流下セシムルヲ要ス

第四項 雪隠内面ノ壁糞壺ニ近キ四圍ハ必ズ漆喰ヲ

以テ上塗ス可シ

第二條 各自便所ハ家屋新築及ヒ修繕等ノ節成ルヘク

前項ニ準據シ構造ス可シ

第三條 現在ノ糞桶其構造極メテ粗ナルガ或ハ破壊シ

テ不潔物ノ漏出スルモノハ成ルヘク速ニ補理ヲ加フ

可シ

第四條 街頭便所ノ尿尿壺ハ石或ハ厚板等ヲ以テ構造

シ漏泄ヲ防ク可シ

第五條 街頭便所ハ尿尿溜堆セサル様郡區役所ニ於テ

注意シ時々汲取ラセ五日目毎ニ清水ヲ以テ洗滌ス可

シ

第六條 私有地并街頭便所尿尿汲取方ハ地主又ハ區役所ニ於テ受負人ヲ定メ置シ可シ

第七條 尿尿汲取期日ハ居住人ノ多少ニヨリ適宜相定メ苦シカラスト雖モ一週間ヲ超ユヘカラス、

但街頭便所ノ掃除期限ハ第五條ノ通り心得ヘシ

第八條 尿尿汲取人汲取方ヲ怠リ尿尿溜滯シ或ハ街頭便所不潔ナル場所アルキハ何人ニヨラス警視分署ヘ届出ヘシ但本條ノ場合ニ於テハ速ニ人夫ヲ出シ尿尿

ヲ汲取掃除ヲ爲サシメ事機ニヨリ其費金ヲ徴収スルヲアルヘシ

第九條 糞桶ハ左ノ圖(略)ノ如ク臭氣漏レサル様製造スヘシ若シ粗造ニシテ臭氣漏泄スルモノハ運搬差止相

當ノ處分ヲナスヲアル可シ

第十條 傳染病流行スルキハ汲取時間ヲ制限スルヲアル可シ

第十一條 前條ノ場合ニ於テハ大小便所共日々石炭酸水并臭氣止等ノ藥品ヲ撒布ス可シ

第十二條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラル可シ

○氷製造人并販賣人取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事
全十一年十二月甲
第六十三號布達

氷製造人并販賣人取締規則
第一條 凍水ヲ製造セント欲スル者ハ毎年其製造場ノ

圖面并ニ貯藏スル處ノ地名ヲ詳記シ警視本署ヘ願出

許可ヲ受シ可シ

第二條 卸賣營業ヲナサント欲スルモノハ其製造人及

ヒ製造場ノ地名ヲ詳記シ前條ノ手續ヲナス可シ

第三條 製造人ハ其製造場ノ裝置等出張検査官吏ノ指

揮ヲ受シ可シ

第四條 製造場ハ時々検査官吏ノ巡視スルモノトス若

シ有害物ヲ混入スルカ或ハ不潔ノ製ト見認ムルハ

其製造ヲ差止メ又ハ投棄ヲ命スルコトアル可シ

第五條 凍水ヲ貯藏スルハ其時々所轄分署へ届出他

ヨリ輸送ノ證ヲ添ユヘシ管轄 検査ヲ受シ可シ若シ其凍水

惡製ト見認ムルハ第四條ニ準シ處分スルコトアルヘ

シ但貯藏場不潔ナルハ修理又ハ場所替ヲナサシム

ルコトアル可シ

第六條 卸賣小賣ノ店頭ニ何地製造ノ氷ト大書シタル

看板ヲ掲ケ行商ハ荷箱等ニ表出ス可シ

第七條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラ

ル可シ

○神田玉川兩上水禁例左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ

施行候條此旨布達候事全五十一年十月甲

第五十七號布達 神田玉川兩上水禁例

第一條 魚鳥ヲ捕リ及ヒ游泳シ又ハ諸物品ヲ洗フ可カ

ラス

第二條 塵芥瓦礫其他汚穢物ヲ投棄ス可カラス

第三條 上水ニ沿フタル各地面ヨリ汚水混入セシム可

カラス

第四條 隄上ノ竹木及ヒ下草等伐採ス可カラス

第五條 (刪除)

第六條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラル可シ

○千川水道取締禁例左ノ通相定候條此旨布達候事年全五月
甲第二十
五號布達

千川水道取締禁例

第一條 乃至第四條及ヒ第六條(前全文ニ
付略ス)

第五條 水道敷地内へ諸車ヲ輓キ入レ又ハ牛馬ヲ牽入ル可カラス但道路ニ係ル分ハ此限ニアラス

○諸獸屠場及ヒ賣肉規則左ノ通改正候條此旨布達候事年全
十月

十三年三月甲第
十七號布達

諸獸屠場規則

第一條 (刪除)

第二條 牛羊豕ヲ屠殺セントスル者ハ午前第八時ヨリ

正午十二時迄ニ諸獸屠場内検査所へ願出へシ但検査ハ各人到着ノ順次ニ依ル可シ

第三條 屠殺時間ハ時季ニ因テ伸縮スルコトアル可シ

第四條 (刪除)

第五條 外國産ノ牝牛ヲ屠殺セント欲スルキハ一晝夜検査所へ留置キ精査ノ上其可否ヲ定ム可シ

第六條 検査ヲ受ケサル牛羊豕ハ決シテ屠場内へ繫ク可カラス

第七條 種取ノ牝牛ハ屠殺スルヲ許サス

第八條 屠場外ニ於テ牛羊豕ヲ屠殺スルヲ許サス但

本條ヲ犯ス者ハ不良肉同様ノ處分ヲ以テ現物燒棄或

ハ埋沒ス可シ

第九條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラ

ル可シ

賣肉規則

第一條 賣肉商人ハ一郡區毎ニ組合ヲ定メ正副取締ヲ

置キ總テ屠肉販賣上ノ取締ヲナサシム可シ

第二條 獸肉商業ヲナサントスル者ハ該業取締加印ノ

上區戶長與印ヲ以テ警視本署へ願出テ免許鑑札ヲ受

ク可シ若シ轉居スル節ハ同様ノ手續ヲ以テ鑑札書換

ヲ願出シ可シ但廢業ノ節ハ免許鑑札ヲ所轄分署へ返

納ス可シ

第三條 賣肉商人ハ左ノ圖式(略)ノ看板ヲ店頭ニ掲ク可

シ

第四條 鑑札貸借或ハ無鑑札ニテ營業スルヲ禁ス

第五條 卸賣商人ヨリ小賣販賣人へ屠肉ヲ販賣スルハ

ハ其月日并卸賣商人ノ姓名ヲ記シタル證印ヲ付ス可

シ

第六條 他管下又ハ外國ヨリ輸入ノ屠肉ヲ買入ル者

ト雖モ必ス屠場ノ検査ヲ受ク可シ

第七條 無檢印若シハ腐敗ノ肉ヲ鬻キ又ハ他ノ獸肉ヲ

混賣スルヲ禁ス

第八條 新ニ開業スル者等ヨリ出金ヲ促シ又ハ組合種々ノ名義ヲ以テ集合スルヲ許サス但シ止ヲ得サル場合アルキハ當本署ヘ伺出認可ヲ受ク可シ

第九條 (削除)

第十條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラ
ル可シ

○牛乳搾取人取締規則更ニ左ノ通改定候條此旨布達候事
全四十一年六月甲
第四十五號布達

牛乳搾取人取締規則

第一條 乳牛ヲ畜養シ乳ヲ搾取セント欲スル者ハ左ノ書式(ス略)ニ準據シ圖面ヲ添ヘ其區戶長ノ奥印ヲ以テ警視本署ニ願出鑑札ヲ受ク可シ尤鑑札一枚ヲ以テ二ヶ

所ノ麥場ヘ流用スルコトヲ禁ス但支店等ヲ設ケテ其乳牛ヲ販賣セシトスルモノハ其旨該所轄警視分署ヘ届出可シ

第二條 若シ居所ヲ轉スル節ハ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ願出可シ

第三條 麥場ハ時々洒掃シ決シテ不潔臭氣ナキヲ要ス可シ

第四條 搾取所ニ牡牛及ヒ犢牛ヲ繫キ置ク可カラズ但シ犢牛ハ生産ヨリ百五十日繫留ヲ許ス

第五條 牛乳ハ人身ノ健康ヲ保全スル至重ノ飲料ニ付他ノ品種ヲ混和シ及ヒ塵埃等散入セサル様注意ス可シ

第六條 乳汁ヲ運搬シ及ヒ貯藏スルノ器具ハ決シテ銅製ヲ用ユ可カラズ

第七條 畜牛若シ病ニ罹ラハ醫師ヲ招キ治療ヲ乞ヒ萬一傳染病ノ兆候ト認ムルキハ速ニ其容體書ヲ添へ所轄警視分署へ届出へシ但本條ノ場合ニ於ル牛乳ハ一切販賣スルヲ禁ス

第八條 畜牛増減アラハ其時々所轄警視分署へ届出可シ

第九條 乳牛若シ狂病犬ノ爲メ咬傷ヲ受ケシ時ハ全癒後尙ホ一ヶ月間販賣スルヲ禁ス

第十條 牛乳受賣ヲナスモノハ第五條第六條ヲ遵守シ警視本署へ願出鑑札ヲ受ク可シ

○近來アコリン其他鐵屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物及ヒ玩弄物小兒ノ手遊ニ供スルモノニ着色スル者甚ナカラス右ハ自然人身ノ健康ヲ害スルハ勿論往々其毒ニ中リ危難ヲ致ス者有之ニ付右ノ品類ヲ以テ着色候義不相成候條自今左ニ記列スル品ニ限り相用フヘシ此他ノ品類ヲ飲食物及ヒ玩弄物ノ着色ニ相用度モノハ現品相添警視廳へ伺出ヘシ此旨布達候事全十四年四月甲(府知事)連署但違犯候者ハ所有ノ現品悉皆取揚クル事アルヘシ無害着色料

赤色部

- 一 ベンガラ 第一 名 鐵 丹 鐵 即
- 一 狸燕脂 以テ製スルモノ

一 茜草アケビ

一 蘇木スホ

一 日本紅紅花ヲ以テ小町スルノ類ニテ

黃色ノ部

一 黃柏キツク

一 洎芙蘭サフラン

一 山梔子クサナ

一 ズミ並煉ズミテサ梨ノ皮ヲ以

一 鬱金粉但鬱金沙ハ毒アリ用フヘカラス

青色ノ部

一 日本藍藍葉ヲ以テ紙類ニモテ藍

一 青粉野菜ヲ以テ

一 末茶

紫色ノ部

一 紫根

黑色ノ部

一 木炭

一 油煙

金色并銀色ノ部

一 金箔

一 銀箔

以上十八種ハ飲食物并玩弄物ニ用フル着色料ニシテ此
品類ノ内單味或ハ調合シ用フルモ妨ケナシ
一 胡粉 炭酸石灰

- 一 眞鍮箱
- 一 銅箱 ハ嬰兒ノ
- 一 錫箱 成ルヘ
- 一角粉 ハ
- 一 石膏
- 一 砥ノ粉
- 一 地ノ粉
- 一 黄土
- 一 代赭石
- 一 麒麟竭
- 一 玉墨

以上十二種ハ玩弄物ニ用フル着色料ニシテ此品類及ヒ

前項十八種ノ内單味或ハ調合シ用フルモ妨ケナシ

○神田玉川兩上水及ヒ利根川自_レ汲取候販賣之飲水運送
 船川々ニ於テ風波ノ爲メ潮水等混入候儀有之候テハ不
 相成候間右營業人心得方自今左之通假ニ相定候條此旨
 可相達事 全十年九月十九日丙第五號達

- 第一條 神田玉川兩上水及ヒ利根川ヲ除クノ外他ノ川
々ニ於テ飲水ヲ汲取ヘカラズ
- 第二條 汲取タル飲水ニ潮水及ヒ汚穢物等混入セサル
 様運搬船ハ板蓋ヲ用ユベシ
- 第三條 該船ハ日々清潔ニ掃除ヲナスベシ
- 第四條 上水樋口ヨリ汲取候節ハ微塵鐵網或ハ麻布張
 枰等ノ水漉器具ヲ用ユベシ

第五條

飲水販賣ノ節水桶ハ必ス蓋ヲ用ユベシ

○(參)不潔ノ水ヲ飲料ニ用フル時ハ人身ノ健全ヲ害スル

ハ勿論ニ候處從來都下之風習ニテ粗造ノ井戸側ヲ用

ヒ或ハ甲板下水ノ設ケナク或ハ下水ノ設ケアルモ頗

ル接近スルヲ以テ溜滯ノ汚水自然井中ニ滲入シ爲メ

ニ水ノ素質ヲ變換スルノ患害不尠就中傳染病流行ノ

際ニ於テハ最モ忽カセム可カラサル義ニ候條自今

共同私有ノ別ナク別紙飲料水注意法ニ照シ新調又ハ

補理候様無遺漏各自ニ懇篤諭達ス可シ此旨相違候事

全十一年五月九日
乙第十八號

但時々警視官吏巡廻實地檢査ニ可及候事

(別紙)

飲料水注意法

一井側ノ破壞シテ汚水滲透スルノ患アルモノハ速カ

ニ新調スヘシ

一井戸流シノ大破スルモノハ新調シ其小損スル者ハ

板及ヒ埴土等相應ノモノヲ以テ精密ニ壅塞スベシ

一凡ソ井戸ニ下水ナキモノハ新タニ作ルヘシ

但下水ハ能ク水ノ流通スル様注意スヘシ

一從來地形ノ不便ニ依リ他ノ所有地ヲ經ザレハ井戸

下水ヲ開設シ難キ場所ハ雙方地主協議ノ上取設ク

ヘシ若又道路等官有地ニ交渉スル者ハ府廳ノ檢査

指圖ヲ受クヘシ

但井戸ヲ新設セヨトスル時本項ノ場合アルニ於

一前項ノ場合ニ於テ事情不得已者ハ當分汚水溜ノ設
 ケアルモ妨グズト雖井戸ヲ距ルコト三間以上タル
 但地所狹隘ニ一三間以内接近セザルヲ得ザル場所
 板又ハ墜土等ヲ以テ汚水ノ漏レザル様ニスベシ
 一井戸ヨリ三間以内ハ厨房ヲ新クニ作ルヘカラス
 且現在設置シテ雖モ修繕等アリ毎本
 一井戸近傍ニ於テ襪襟虎子等汚穢ノ物品ヲ洗滌シ及
 一魚鳥ノ骨腸等ヲ棄ツルカラス
 一呼出井戸ノ水管破損スルト認ムルハ速カニ之ヲ

補理

一上水井ニ於テハ汚濁且塵埃等アルカ又ハ臭氣ヲ含
 申出ヘシ
 一每年少クモ一度ツ、井戸浚ナナスヘシ

○方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處温暑ノ時ニ方テハ共
 臭氣人身ノ健康ヲ害スルルニナラズ近來獸類等ノ傳染
 病流行往々人生ノ傷害ヲ釀シ候ニ付自今三府市街ノ區
 内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ豢養ノ儀堅ク禁
 止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ
 三十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退豢養可致事
 但東京府下朱引内ハ假令草野空間ノ地上雖モ豢養

不相成候尤乳汁搾取ノヲメ養候ハ被差許候得共不
潔臭穢ノ儀モ有之候ハ詮議ノ上可令取拂事五月六年
百六十三號布告

○牛疫傳染ノ義ニ付テハ兼テ相達置候處尙又今般別紙豫

防法相示候條自來一層厚ク相心得充分豫防行届候様注

意可致尤疫牛撲殺候節ハ速ニ其始末府廳ニ可届出此旨

牛頭畜養ノ者ニ無洩可及告示者也甲全九二年二月東京府

傳染牛疫豫防法

一若シ一戸ニ傳染牛疫ノ徵候發顯スルキハ速ニ之ヲ撲
殺シ其死體ハ時日ヲ移サズ壹丈貳尺ノ地下ニ埋没ス
ルカ或ハ燒棄ツヘシ若シ又傳染病ニアラスト雖モ凡
畜牛ノ病ヒアルヲ發見セハ速ニ區戶長ニ届出ヘシ區

戶長ハ近隣ノ醫師ヲ率ヒ出張シテ檢査シ速ニ其狀ヲ

府廳ニ届出ヘシ

一傳染疫ニアラスト雖モ凡ソ畜牛ノ病ニ罹リタルキハ

速ニ近隣ニ知ラセ健牛ヲ所持スル者ト往來出入スヘ

カラスト

一戸數頭ノ牛ヲ畜養スルモノハ若シ壹頭ノ牛疫病ノ

徵候アルキハ直ニ健牛ヲ他ノ牛頭無之地ニ引移スヘ

シ尤其場所ヨリ凡方二里以内ノ地ヲ限リトス

一地方ニ傳染疫發起ノ聞ヘアレバ一層注意廐舎ヲ清

淨ニシテ寢藁ナド度々取替ヘ濕氣ヲ乾カシ空氣ノ流

通ヲヨクスルヲ怠ルヘカラスト且左ノ藥劑ヲ時々廐

内ニ散布スル

一 石炭酸水石炭酸五合位
 又ハ一鹽酸石灰水鹽酸五合位
 一 飼料ハ和ガニシテ消化シ易キ物ヲ與フベシ
 但シ燕麥粉ノ得易キ地ニテハ常食ニ與フルヲ最モ
 良トス
 一 乾草ハ鹽水ヲ振り掛テ潤シテ與フベシ
 但シ多分ノ青草ヲ與フルハ下痢ヲ醸ス恐レアレハ
 加減スヘシ
 斃死後所置
 一 傳染病ト覺ホシキ症ニテ斃ルモノアラハ廐舎ノ内
 外ヲ能ク洗ヒ硫黃一斤ヲ薰シ石炭酸水ヲ散布シテ臭
 氣ヲサテシムヘシ尤病牛ノ糞尿其外治療ニ用ヒタル

一切ノ物品ハ深ク土中へ埋ムルカ又ハ硫黃ヲ散布シ
 テ燒キ捨ツベシ
 一 病牛ヲ取扱ヒタル人ハ衣服ヲ取換ヘ身體ヲ清淨ニシ
 一 週回ヲ經サレハ健牛ニ近ツクヘカラス
 一 總テ斃牛ヲ取扱ヒタル場所へハ石炭酸水ヲ散布カヘ
 但生石灰ニテモヨシ
 一 傳染病牛斃死ノ廐舎ハハ六ヶ月ヲ經サレハ健牛ヲ繋
 クベカラズ
 ○牛病發見候節ハ是迄區戶長へ届出候處自今該區警視分
 署へ可届出此旨布達候事全十年二月甲
 但處分方法等ハ明治九年東京府第二十七號第四十號

布達ノ通可心得事

○(照參)

今般シベリア海岸ヨリ悪性傳染疫流行ノ趣別紙譯

文(ス略)ノ通上海出張官員ヨリ申來候ニ付テハ右豫防法

大學東校ニ於テ取調被仰付一般頒布ニ相成候條此旨

相達候事

全四年六月

豫防法

一 諸開港場嚴ニ入船ヲ改メ當分ノ内生ケル禽獸ハ勿

論新シキ皮革ノ輸入ヲ禁シ殊更彼地方ヨリ來ル物

ハ嚴ニ改ムヘシ尤モ病人アレハ醫官改ノ上其病ニ

非レハ上陸ヲ免スヘシ

一 樺太北海道對州等ハ彼地方ニ接シ常々往來交易ア

レハ殊ニ注意スヘシ從來御國ノ皮革ハ北海道ヨリ

來ルモノ多ケレハ專ラ注意スヘシ

一 何レノ地方ニテモ追テ御沙汰アル迄ハ病死セシ禽

獸ヲ賣買致ス事嚴禁タリ若シ賣買セハ御咎アルヘ

シ若シ又右賣買セシヲ聞及ハ申出ヘシ御賞アル

ベシ

一 右病死セシ禽獸ヲ食シ又其皮ヲ剥キ用ユル事嚴

禁タリ

一 各地方ニ於テ禽獸ノ死亡平日ニ増ス事アレハ地方

官ニ申出テ地方官ヨリ大學東校ニ報知スヘシ

一 禽獸病死セハ燒捨ヘシ殊更臨終ニ摺縮ヲ發シテ死

セシ禽獸ハ油斷ナク燒捨ヘシ

一 禽獸ノ屍ヲ水中ニ捨ル事禁止ヨリ若見掛ハ其所ノ

役人へ報し取揚ケ焼捨へし
 一禽獸ノ死亡相増候地方ニテハ一入豫防法ニ注意ス
 一へし若病ニ感染セシト思ハ、速ニ良醫ニ托スへし
 妄ニ藥ヲ服スルトナカレ
 一都ヲ此病ヲ防クニハ病ノ傳來スルトセサルトモ拘
 ハラス身體ヲ清淨ニシ可成丈ケ衣服ヲ洗濯シ垢付
 サル様ニスベク家居モ掃除ヲ能クシ殊更廐牛部屋
 又ハ鳥小屋豚小屋等ハ成丈ケ清淨ニシ當時禽獸ノ
 居ル所ニ衣類ナド置カザル様ニ心掛へし
 一天氣熱キ日ニハ窓戸ヲ開キ風入ヲモクシ室内ハ乾
 燥スルヲ要ス
 一生養ノ物熟サシル菓類鹽漬ノ物腐臭ニ傾シ物硬強

ノ物等平日タリトモ宜シカラヌ成丈ケ是ヲ謹ム
 一酒家ハ絶テ禁スルニ及ハサレ共暴飲スヘカラス且
 房事ヲ節ニスへし
 一禽獸ノ肉ヲ食ハ、ヨク出所ヲ尋テ正シク食用ノヲ
 メ殺セシ物ヲ食フニシテ必ス病死セシ肉ヲ食フ事ナ
 カルへし
 一當分ノ内新シキ皮革ヲ日用ニ供スル事ナカレ殊更
 新生皮ヲ外國船又北海道ヨリ輸入スル事嚴禁タリ
 一禽獸ノ屍ヲ潰セシ水ヲ飲又ハ此水ニテ顔手足ナト
 洗ハ、此病ヲ受ク故ニ用水ノ源ヲ正シ若是アテハ
 早ク取除キ川下へ其趣知ラセへキ事

○(照參)疫牛處分假條例(略)乙九年三月內務省

○傳染病者届規則左之通相定候條此旨布達候事(全十四年五月甲第十

布達十七號)

傳染病者届規則

第一條 醫師傳染病ヲ診斷スルモノハ傳染病豫防規則

第二條 所定ノ時間内ニ所轄警察署ヘ届出ヘシ

第二條 郡村ニアリテハ第一條ノ手續ヲ以テ醫師ヨリ

戸長役場若クハ衛生委員又ハ警察署ヘ便宜届出ヘシ

但戸長及ヒ衛生委員ニ於テハ速カニ其届書ヲ所轄

警察署ヘ送付スヘシ

第三條 他醫ノ施治ニ係ル患者ヲ診斷シ萬一傳染病ナ

ルキハ前醫届出ノ有無ヲ問ヒ若シ無届ナレハ速ニ第

一 條第二條ノ手續ヲナスヘシ

第四條 醫師二名以上ニシテ其所見ヲ異ニスルキハ各

自意見書ヲ以テ届出ヘシ

第五條 若シ傳染病者死亡シタルキハ二十四時間ニ全

治フモノハ三日間内ニ醫師ノ届書ヲ得テ其患者ノ家

ヨリ第一條第二條ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第六條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラ

ル可シ

○各種傳染病ニ罹リ自宅療養中轉居スルモノハ其旨所轄

警察署ヘ可届出此旨布達候事(全十四年六月甲

○(照參)明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢

止傳染病豫防規則左之通相定候條此旨布告候事(全十

四七月布告三十

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸窒扶私、

赤痢、實布の里亞、發疹室扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルキハ

地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遲クモ二十四

時間ニ之ヲ患者所在ノ町村衛生委員ニ通知スルヲ

要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ

通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳東京府下ハ府廳及ヒ

届出ヘシ地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治癒死

亡ノ數ヲ內務省ニ申報スルヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直チニ警察署ニ届

出警察署ヨリ衛生委員ニ通知スルモ妨ケナシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アルト認

ルハ其性狀ヲ記シ速ニ之ヲ內務省ニ通報シ

且其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營

其地碇泊ノ軍艦ニ報告スルヘシ

第四條 刪除

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄、及ヒ官立ノ學校、病院、製

作所等ニ於テ傳染病者ノ出ルハ其主長ハ該地方官自協

議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地

方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スベキト認
ルルハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコト得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ
許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行

届カズ若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ

避病院ヘ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書

シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶スル

ヘシ

但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入リタル後相當

消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシム

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫

ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシム

ヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リ

ニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシテ其遺骨ハ改葬スル

モ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ

病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ビ之ヲ

用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ト圃、園、芥溜、下水、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ檢査シ患者若クハ死者アルキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナル時ハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延シ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサ、ル様遮斷ヲ得ルキモシ見認ルルキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶シテ檢査ヲ處分ヲ爲スコトヲ得但要用シ者ハ掛官吏檢察ヲ上交通ヲ許スコトヲ得

第十六條 腸窒扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及第十二條ヲ適用スヘシ

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及第十二條ヲ適用スヘシ

二 實布埤里亞病

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムルハシ

第十九條 發疹室扶私病流行ノ際ハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用ス

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フコトヲサレハ他用時供スルモノハ消毒スルコトヲ命ジテ之ヲ行フハ罰金ニ處ス

第二十一條 痘癩病流行ノ際ハ第十條第十一條第二十條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セ

第二十二條 醫師衛生委員此規則ニ違背シタルハ罰金五拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルハ罰金五拾

○參照 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則左ノ通制定ス

全十五年六月第一號布告

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

第一條

凡ハ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ検査官ノ検査ヲ受ケ其記名セシ許可證書ヲ得タル後ニ非テ他港ニ進航シ陸地又ハ他船舶ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸并ニ積荷ヲ陸揚シ爲ス可カラズ

第二條

其船中該病患者又ハ該病死者ヲ曉テ該検査官直ニニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船舶ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸并ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可

第三條

若シ其船中該病患者又ハ該病死者アルハ検査官其船舶ヲ陸地及ニ他船舶ニ傳染シ虞アリト認

離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシメ可シ該病患者ハ之ヲ避病院若シハ其住居若シハ其他検査官ニ適當ト認

望アルトキ該地方官所定ノ場所ニ火葬シ若シ十分ナル消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬ス可シ

前項ノ手續ヲ終リ検査官ハ其乗組人船客ハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及ニ傳染

シ後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船舶ト交通シ及ニ積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條

此規則ニ違背シタル者若シハ此規則ノ執行ヲ妨害
タル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分ス可シ
第五條
此規則施行始終ノ期日並ニ場所其都度内務卿
之ヲ指定ス可シ

○近來水車並搗米渡世者金剛砂早搗粉ヲ稱スル粉末
ヲ支米ニ混合シ搗精候者有之趣右ノ飯米ハ自然人身ノ
健康ニ害アルヲ以テ其糠ヲ牛馬ノ食糧ニ供スル
ハ尤モ傷害アルニ付自今右砂ヲ混合シテ米穀ヲ搗
立候義不相成候條此旨布達候事
甲十三年六月五日東京
○舶來染粉ノ儀中ニ砒石昇汞其他ノ毒物ヲ含有セシモ

ノ有之ニ付自今(飲食物事)四年四月布達
齒磨粉ノ類へ着色販賣不相成候此旨布達候事
月全廿九年六月

東京府布達

○飲食物ノ中毒及上劇毒藥服用等ヨリ死ヲ致ス者ハ勿
論死ニ至ラサル者ト雖田中毒症ト診斷スルキハ主治醫

ヨリ速ニ其旨所轄警察署ニ届出候様營業者へ告示ス
ル此旨相達候事
乙十五年五月

但届書ハ該家ハ付シ差出サセ不苦候事

第三十五條

(刑四二)

禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ

又ハ取除カサル者

街路取締規則參照スル

死屍ヲ道路ニ棄擲シ

又ハ取除カサル者

街路取締規則參照スル

死屍ヲ道路ニ棄擲シ

第三十六條

(全上)

汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲

シタル者

同上

汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲

シタル者

同上

汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲

第三十七條

(同上)

汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲

シタル者

同上

汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲

シタル者

同上

汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲

第三十七條(全上)醫師穩婆事故ナクシテ急病人
招キニ應セザル者

○(照參)憲兵條例施行ニ付テハ變死人等處分ニ際シ臨時最
寄開業醫ヲ以テ臨檢セシムル義モ可有之候條開業醫
於テハ速ニ其召喚ニ應ジハシ此旨布達候事(全十四
月東京府甲第
百七十五號布達)

但臨檢手當金等ハ東京憲兵本部ヨリ支給ノ義ナ
得

第三十八條(刑四二)溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署
ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者(市街掃
除規則)

第三十九條(刑四二)官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ
照參

掃除ヲ爲サル者(全上)

第四十條(警)火葬場取締規則ニ違背シタル者

○火葬場取締規則左之通相定候條此旨布達候事(全十三
月甲第
卅五號
布達)

火葬場取締規則

第一條 火葬場ハ現在ハ五ヶ所ヲ以テ定限

第二條 火葬場主ハ郡區長ノ與印ヲ受ケ警視本署へ願

第三條 火葬場ヲ讓渡セシムル者ハ讓受人連印ノ上

第四條 火葬場ヲ手續ヲ以テ願出

第五條 火葬場ヲ以テ願出

第六條 火葬場ヲ以テ願出

第七條 火葬場ヲ以テ願出

第八條 火葬場ヲ以テ願出

第九條 火葬場ヲ以テ願出

第十條 火葬場ヲ以テ願出

第十一條 火葬場ヲ以テ願出

第十二條 火葬場ヲ以テ願出

第十三條 火葬場ヲ以テ願出

證書ヲ所持セザル者ハ火葬スルヲ許サズ但本條ノ場

合ニ於テハ速ニ所轄警察署ヘ申告ス可シ

第五條 火葬時間ハ午後第八時ヨリ午前第五時ヲ限リ

執行スベシ但傳染病流行ノ際ハ此限ニ在ラズ

第六條 火葬場構造ノ改良及位置ノ更換等時機ニヨリ

命スルコトアル可シ

第七條 烟筒及ヒ火葬場等ハ不潔ナキ様時々掃除ヲナ

ス可シ

第八條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラ

ル可シ

第四十一條 (六警) 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ糞

糞ノ干場ヲ設ケタル者

○ 糞罨乾製ノ義ハ朱引内人家稠密ノ場所ニ於テ製造候義

自今不相成候條右營業ノ者ヘ可相達事全十一年三月達

第四十二條 (全上) 免許ヲ得スシテ産婆ノ業ヲ爲

シタル者

○ 從來營業ノ産婆本府病院ニ於テ技術教授及ヒ試験ノ上

順次假免狀付與スベキ旨本年九月甲第九十四號布

達候ニ付テハ自今新タニ産婆ノ業ヲ營ソトスルモノハ

其時々出願ノ上試験ヲ受候義ト可相心得此旨布達候事

全九百三十九號東京府

但入學志願ノ者ハ甲第九百三十八號布達ノ通心得ヘシ

第四十三條 (全上) 産婆營業者醫師ノ指揮ヲ受ケ

スシテ産科器械ヲ使用シタル者

○四二

○產婆營業之者醫師ノ指揮ヲ不受シテ器械ヲ使用候儀不相成候條此旨布達候事甲全廿二年七月東府

○第三款 營業

第四十四條(刑四二)警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ

業ヲ爲シタル者

○近來幼稚ノ翫弄物ニ製造西形短銃ニ用ユル紙雷管

ノ義ヲ取扱上危險不少ニ付今後右雷管製造販賣不相成

候條此旨布達候事甲全廿二年六月

○八品商取締規則左之通改定候條此旨布達候事一月九年第十

布達候事第一號

○第一條左ノ商業ヲ營ム者八品商取締規則ニ依リテ

ノ規則ヲ遵守セシムル事

質屋 染物屋

古着賣買 西洋古服靴傘賣買

古銅鐵賣買 潰シ金銀賣買

古道具屋 大道具屋

雜道具屋 時計屋

袋物屋 小間物屋

紙屑賣買 古本賣買

籠甲屋 籠甲職

飾屋 飾職

箔打職 損料貸

仕立職 諸車製造職

二四二

塗物職

古道具等雜市場

西洋小間物屋

鑄物職

古書畫屋

煙管屋

鑄掛職

馬具并革細工職

煙管職

靴職

鍛冶職

土繪職

錠前職

第二條 右商業ハ一小區限リ組合ヲ立テ正副頭取ヲ置

キ組合中諸事取締可致事但正副頭取ハ全業中人數ノ多寡ヨリ適宜ニ之ヲ増減スルヲ以テ豫メ其員ヲ定

メ

第三條 頭取ハ品觸其他當廳ヨリ達アラハ速ニ組合ヘ

廻達可致事

第四條 頭取ハ組合名前帳ヲ製シ商業并住所本籍寄留

姓名年齢等ヲ記載シ銘々實印ヲ取リ置クヘキ事

第五條 此商業ヲ爲サント欲スル者ハ戶長并組合頭取

ノ與印ヲ以テ當廳ヘ願出テ鑑札ヲ可受事但質屋ハ東

京府ヨリ營業鑑札ヲ受ケ候上本文ノ如ク出願スヘシ

第六條 轉業及ヒ廢業ハ第五條ノ手續ヲ以テ鑑札返納

可致事

第七條 居商ハ店頭ニ看板ヲ掲ケ行商ハ鑑札ヲ携帯ス

ルヘキ事

第八條 開業廢業并移轉死亡等ノ者ハ頭取ノ手ヲ經テ

警視署及ヒ區務所ヘ届出ヘキ事

第九條 無鑑札并組合ニ入ラス商業決テ不相成事

第十條 鑑札ヲ他人ニ貸與ヘ或ハ借受ケ商業不相成事

第十一條 各商共左ノ二種ノ帳簿ヲ製シ置キ無遺漏記

載當廳取調ノ用ニ供スベキ事

第一 明細帳

此帳簿ニハ質入レ主賣主等ノ住所姓名品柄ヲ詳記

シ置クヘシ若シ住所姓名熟知セサル者ハ第十三條

ノ手續ヲ爲スヘシ

第二 品觸綴帳

此帳簿ニハ紛失品觸ヲ綴リ置ク可シ

第十二條 前條ニ記ス第一ノ帳簿ニハ頭取ノ認メ印ヲ

受ケ紙數ヲ記載シ置クヘキ事

第十三條 質入レ主賣主住所姓名等熟知セサル者ハ證

人壹人爲相立必其兩判ヲ取置クヘシ尤證人ハ男女ヲ

論セズ其住所姓名ヲ知ル者ニ限ルヘキ事

第十四條 官廳ノ印アル品或ハ官品ト見定メタル物ヲ

質入シ又ハ賣却シ或ハ染色模様等ヲ變換スル者アラ

ハ手段ヲ以テ之ヲ留メ置キ巡行ノ巡查又ハ最寄ノ警

視署ニ密告スヘキ事

第十五條 質入レ主又ハ染物等ヲ頼ム者ヲ怪シク見受

ケタルハ速ニ前全様訴出ツベキ事

第十六條 品觸ニ類似ノ物品アラハ速ニ其所轄ノ警視

署ニ訴出ツベキ事

第十七條 途中往來ニ於テ物品買取可ラサル事

第十八條 紙屑買及ヒ古着古銅鐵等買廻ル者ハ左ノ圖式(略)ノ木札ニ警視本署ノ檢印ヲ受ケ其携帶スル目籠行李等へ必ス標出ス可シ但雇人ニシテ買廻ルモノハ其備主ヨリ本條ノ手續ヲ以テ檢印願出ツ可シ

第十九條 行商ハ決シテ商業外ノ物品ヲ買取ル可ラス且必ス秤ヲ攜フヘキ事

第二十條 新ニ組合ニ加入スル者ヨリ種々ノ名目ヲ以テ金錢等ヲ取集ムル儀決シテ不相成事

第二十一條 正副頭取ハ勿論各商共此規則ニ違犯シ其他不正ノ所業有之ヲ見聞候ハ速ニ所轄ノ警視署へ密告ス

第二十二條 不正品ヲ必付キ品觸ヲ待タズ速ニ訴出ス

ル者ハ他日不正ナル事顯然タル節ハ其賞トシテ金五圓以下ヲ給ス品觸アリテ速ニ訴出テ右同斷ノ者ハ金三圓以下ヲ給與スヘキ事

第二十三條 (消滅)

第二十四條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○露店ニ於テ金銀銅鐵及ヒ珠玉藍甲細工ノ諸器物并古着類販賣候者ハ自今左ノ雛形(略)ノ木札ヲ添其區戶長ノ與印ヲ以テ警視本署へ願出檢印ヲ受ケ營業ノ節ハ必店頭ニ標出可致此旨布達候事全十一年四月四日 甲第廿八號布達

但從前營業ノ者ハ一區區限リ戶長ニ於テ取纏來ル十五日限リ本文ノ手續ニ準シ本署第二課へ可差出

事

○寄席取締規則更ニ左ノ通相定候條此旨布達候事ニ全月甲

第六號
布達

寄席取締規則

第一條 寄席ヲ營メ者ハ其區戶長ノ與印ヲ以テ東京警
視本署ヘ願出鑑札ヲ受ク可シ但シ廢業ノ節ハ本文ノ
手續ヲ以テ鑑札ヲ返納スヘシ

第二條 右營業ノ者ハ警視一方面毎ニ一組トシ組合中
ヨリ年行事ニ名或ハ三名ヲ置キ諸事取締ヲナスヘシ

第三條 寄セ席ニ於テ猥褻ノ講談及ヒ演劇類似ノ所作
又ハ燈火ヲ消シ客席ヲ暗黒ニスヘカラス但鑑札所持
セサル藝人ニ出席ナサシムヘカラス

第四條 座席ヲ清潔ニシ及ヒ空氣流通ノ爲メ窓牖ヲ適

第五條 來客ヲ名テ藝人體憩所ヘ出入セシムヘカラス

第六條 夜分迄午後十二時限リ閉席スヘシ

第七條 烈風又節節勿論平常タリトモ火ノ元厚ク注意

第八條 犯罪人ヲ相書キ以テ布達アルモノ及ヒ其他不

審ト見認ムルモノハ速ニ最寄警視分署或ハ巡行ノ巡

査ヘ密告スルモノハ速ニ最寄警視分署或ハ巡行ノ巡

第九條 種々ノ名目ヲ以テ來客ヘ鬮ヲ賣リ出錢ヲ促ス

第十條 組合入費杯ヲ唱ヘ無謂集金スヘカラス

但已トナ得テ集金ヲ要スル節ハ其事由テ具シ東京警
視本署ヘ伺出ツヘシ

第十一條 (刪除)

第十二條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セ
ラル可シ

〇楊弓店取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事
全十一年八月
達號布

楊弓店取締規則
第一條 楊弓店渡世ノ者ハ其區戶長ノ與印ヲ以テ東京

警視本署ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ
第二條 右渡世ノ者左ノ雛形(ス略)ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘ

第三條 廢業ノ節ハ第一條ノ手續ヲ以テ所轄警視分署

ヘ鑑札返納ス可シ
第四條 水火盜難等ニ罹リ鑑札遺毀シタルモノハ其事

由テ詳記シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受ク可シ
第五條 夜間ハ午後十二時限リ閉店スヘシ

第六條 猥褻ノ所業ハ勿論行人ヲ抑留シ又ハ來客ヲ宿

泊セシムヘカラス尤モ客ノ囑托ト雖モ酒肴等ヲ差出
ス可カラス但シ猥褻ノ所業アル者ハ元警視廳明治九

年一月第二十三號達賣淫罰則ニ照ラシ處分スヘシ
第七條 全渡世中犯則ノ者アラハ警視署ヘ申出ツヘシ

第八條 犯罪人々相書ニ類似ノ者ハ勿論其他不審ト認
ムル者ハ警視分署又ハ巡行ノ巡查ヘ密告スヘシ詮議

ノ上相當ノ賞金ヲ與フ
第九條 投扇競ヲ以テ營業トナス者モ總テ此規則ヲ違
守スヘシ

第十條 (刪除)

第十一條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セ
ラル可シ

○雇人受宿規則左ノ通改正候條此旨布達候事全甲第十年十二月
達號布

雇人請宿規則

第一條 雇人受宿渡世ノ者ハ第一號書式ニ照ラシ身元
受人組合取締及其區戸長ノ加印ヲ以テ警視本署ヘ願
出鑑札ヲ受クヘシ

第二條 右渡世ノ者ハ左ノ雛形(略)ノ看板ヲ店頭ニ掲ク
ヘシ

第三條 受宿ハ雇人一切ノ保證ヲナスモノナレハ身元
備ナル者ニ限ルヘシ

第四條 受宿身元受人ハ東京在住ニシテ百圓以上ノ不
動産土地家屋等ノ運搬スチ有シタルモノニ限ルヘシ

第五條 廢業ノ節ハ第二號書式ニ照ラシ所轄警視分署
ヘ鑑札返納スヘシ但移轉ノ節ハ第一條ノ手續ヲ以テ
更ニ鑑札ヲ受ク可シ

第六條 水火盜難等ニ罹リ鑑札ヲ遺毀シタルモノハ其
事由ヲ詳記シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘ
シ

第七條 一大區限リ組合ヲ定メ取締一名副取締三名或

ハ四名ヲ置キ組合取締ヲナスヘシ但シ朱引外ハ朱引

内組合ニ加入スヘシ

第八條 取締ハ諸布達及犯罪人々相書等ヲ組合中へ廻

達ノ手續ヲナスヘシ

第九條 取締給料トシテ受宿一戸ニ付月々金十五錢差

出スヘシ

第十條 鑑札ヲ受ケヌ又ハ組合ニ入ラスニテ營業ヲナ

スヲ禁ス

第十一條 受宿世話料ハ雇人男女ニ不拘給金高ノ一割

ト定メ雇主傭人雙方ヨリ五分宛申受ク可シ

第十二條 雇期限中雇主及ヒ雇人ノ都合ニヨリ解雇ス

節給金下渡及返却又ハ世話料償ヒ方十圓ノハ一給金ニ

テ約シハ六ケ月目ニ至リ傭主ノ都合ニヨリ解雇スル

トキハ傭人ヨリ請宿ヘ拂ヒスルハ六ケ月分ノ世話

料則金二十五錢ヲ傭主ヨリ傭人ヘ償フノ等ハ受宿主

類傭人ノ都合ヲ以テ解雇スルモ亦同シ

立合傭主傭人ノ間ニ條約取結置クヘシ

第十三條 定リタル世話料ノ外種々ノ名義ヲ以テ雇主

雇人ヨリ金錢ヲ貪リ又ハ雇人ノ懐胎ヲ押隠シ口入レ

シ或ハ雇人口入レニ事寄セ止宿セシムル等ノ所業ヲ

ナスヘカラス

第十四條 身元受人死亡其他ノ事故アル時ハ第四條ニ

照ラシ更ニ受人ヲ定メ届出ツヘシ

第十五條 世話料ヲ受用セス懇信等ノ緣由ヲ以テ雇人

ノ口入スルモハ此規則ノ限リコアラズ

第十六條 受宿ハ雇人身元取調造成ル下受人取置クヘ

第十七條 雇人ヲラント欲スルモノ若シ犯罪脱籍其他

不審ノ所業アルヲ認ルルハ警視分署又ハ巡行ノ巡查
ニ密告スヘシ

第十八條 雇人ト申合セ或ハ之ヲ欺キ屢雇主ヲ轉換セ

シメ世話料ヲ食ル等ノ所業ヲナスヘカラス
第十九條 雇主雇人并下受人ノ本籍姓名年齢及帳簿

記載シ置キ警察上取調ノ用ニ供スヘシ

第二十條 雇人ノ身分保證ノ條件ハ受宿ト雇主ノ間ニ

豫メ結約ヲナシ置クヘシ其身元受人ハ受宿ニ對シ保
證ノ責ニ任スヘシ但シ廢業シタル後ト雖モ口入レシ

タル雇人ノ約定期限中本條ヲ通リタルヘシ

第二十一條 組合規則ヲ私ニ取設ケ又ハ無謂出錢ヲナサ
シムヘカラス若シ止テ得サルハ其事由ヲ具シ差圖

ヲ受クヘシ

第二十二條(刪除)
第二十三條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セ

○湯屋取締規則左ノ通り相定メ十一月二日ヨリ施行候條
此旨布達候事但從前ノ布達等本文ニ抵觸スルモノハ廢
止ト可相心得事
第三十二年十月布達

湯屋取締規則

第一條 湯屋及ヒ藥湯溫泉等營業ヲ爲サントスルモノ

第一號書式(略)ニ準據シ紐谷取締ヲ加印ヲ以テ警視
 本署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ
 第二條 廢業シ者ハ第三號書式(略)ニ準據シ其鑑札ヲ所
 轄警視分署ニ返納スルニ依リテ其鑑札ヲ受クヘシ
 第三條 水火盜難等ニ罹リ鑑札ヲ遺毀シ若クハ住所ヲ
 移轉スル者ハ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘ
 第四條 前第一條ノ營業者ハ一郡區毎ニ組合ヲ定メ取締
 一名副取締二名乃至三名ヲ置キ組合諸事取締ヲナス
 第五條 火焚所石煉化又ハ塗屋瓦築造シ烟出天井
 裏ハ漆喰又ハ灰等不燃質ニ物ヲ用フヘシ但火

焚所又ハ烟出シ天井裏等ハ毎月一回必ス掃除スヘシ
 第六條 浴場ニ必ス男女區域ヲ設ケ混同スルヲ禁ズ
 第七條 浴場并ニ階内等外面ヨリ見ヘサル様簾其他ノ
 物ヲ以テ必ス見隠シテ用ヒ出入口ヲ明ケ置ク可カラ
 第八條 夜間ハ午後第十時限リ入浴ヲ止メ火ノ元ニ
 注意スヘシ但烈風ノ節ハ時間無拘限ラズ停業スヘシ
 第九條 浴客ノ衣類ハ勿論其他品物等紛失セサル様注
 意スヘシ
 第十條 犯罪人々相書ニ類似ノ者及ヒ故ラニ浴客ノ物
 品ト換易セントスル者等見認ル時ハ便宜之ヲ留メ置
 キ巡行ノ巡查又ハ最寄ノ警視分署ニ訴出ツヘシ

第十一條 浴客ノ遺留物若クハ換易シ置キタル品等アリテ五日以内事主知シサルモノハ警視分署ニ届出ツルモノニシテ

第十二條 木拾ヒ人ヲシテ猥リニ他ノ構内及ヒ路次内等ニ入ラシメ若クハ他ノ所有ニ屬スル竹木等ヲ採拾セシム可カラズ但シ雇主ノ住所姓名ヲ記シ焼印シタル鑑札ヲ携帯セシム可シ

第十三條 組合取締ハ犯罪人々相書ノ布達アリシキハ速ニ組内ニ廻達スヘシ

第十四條 組合規則ヲ私ニ設ク可カラス

第十五條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラル

〇湯屋營業之者火焚所築造之儀ハ該規則第五條ノ旨趣遵守可致之處往々粗造ノ分有之不都合ニ付自令新築修復共落成ノ上本廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ此旨布達候事

全十四年四月甲
第三十號布達

〇旅人宿規則左ノ通改正候條此旨布達候事

全十四年二月甲
第七號布達

第一條 旅人宿規則ニ照ラシテ第一號書式ニ照ラシテ組合取締及其區戸長ノ加印ヲ以テ東京警視本署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ

第二條 廢業ノ節ハ第二號書式ニ照ラシテ所轄警視分署ニ鑑札返納スヘシ但移轉ノ節ハ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受ク可シ

第三條 水火盜難等ニ罹リ鑑札ヲ遺毀シタルモノハ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ

第四條 右渡世以者左ノ離形(略)ノ看板ヲ店頭ニ掲テ夜間ハ點燈ニ換ヘ旅人ノ認メ易キヲ要スヘシ

第五條 其大區限ヲ組合決定メ取締三名副取締三名或ハ四名ヲ置テ組内諸取締ヲスルコト

第六條 取締諸布達及ヒ犯罪人々相書等ヲ組中ニ廻達受取テ取置ク

第七條 宿泊入届ハ甲乙兩簿ヲ製シ左ノ書式ニ照シ可成詳明ニ記載シ毎日正午十二時限所轄警視分署ニ届出簿冊交換ヲ以テ可シ但朱引外合テ警視分署ニ遠隔地ニ於テハ濃荷巡査交替所同答宿所又ハ區役所

内ニ便宜其場所ヲ定メ置キ本文書式(略)ニ照シ三日以内ニ届出

第八條 總テ宿泊入ノ懇切ニ取扱ヒ浪費等ヲ爲サズ

第九條 單身以旅客ト雖モ故障ナク宿泊セシムヘシ若不審認ムル者ハ本人同道警視分署ニ申出指圖ヲ受ク

第十條 旅籠料定價ハ必ス客室海峯揭示シテ

第十一條 旅籠札ヲ受テハ又ハ組合ニ入テ營業ヲナシ

第十二條 宿泊入身元調ノ節ハ本人ハ響切ナル様厚ク

注意シ且探索向ハ何事ニ依ラヌ他ニ漏洩スヘカラス

第十三條 宿泊人變死又ハ所持ノ物品紛失シタル時ハ速ニ事由ヲ警視分署ヘ訴出ツヘシ但本條ノ場合ニ於テハ總テ宿泊人ノ他出テ止メ置クヘシ

第十四條 賣淫ニ類スル猥褻ノ所業ハ勿論客ノ依囑ヲ以テ藝妓酌入等ヲ招聘スヘカラス但賣淫ニ類スル猥褻ノ所業アルモノハ元警視廳明治九年一月第三十三號達賣淫罰則ニ照ラシ處分スヘシ

第十五條 犯罪人々相書布達ノ節ハ必ス帳簿ニ詳記シ置キ若シ類似ノ者ト認ムルガ又ハ金錢遺方等不審ノ者ハ速ニ警視分署又ハ巡行ノ巡查ヘ密告スヘシ詮議ニ上相當ノ賞金ヲ與フヘシ

第十六條 組合規則ヲ私ニ取設ケ或ハ無謂出錢ヲナサシムヘカラス若シ止テ得サル時ハ事由ヲ具シ指圖ヲ受クヘシ

第十七條 諸國廻漕船宿及荷主宿、荷馬宿、或ハ賄付下宿招牌ヲ出サス親類懸意等ノ緣故ヲ以テ宿泊セシムルハ此限ニアラス等諸人宿泊ヲ營業トスル者ハ總テ此規則ヲ遵守スヘシ

第十八條 正副取締給料トシテ旅人宿一戸ニ付月々金拾五錢ツハ差出ス可シ但諸布達謄寫筆墨紙ノ諸入費ハ毎月計算表ヲ作り營業者ヘ賦課スヘシ

第十九條 (刪除)

第二十條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラル可シ

○自今旅人宿ニ於テ宿引ト唱フル者各所へ差出候儀不相成候條此旨布達候事全三十三年九月甲

○兩替渡世組各取締假規則左之通相定候條此旨右渡世ノ者へ可相達事全九四年七月乙

○兩替渡世ノモ一郡區毎ヨリ組合共設テ頭取一名組合名ハ副頭取一ヲ置テ取締為ス

○搜索物品ノ儀取締官カ布達スル者ハ取締ニ於テ其組合中へ無遺漏通達スル者ハ罰金八兩

○住所姓名儘カテ不審又者過分ノ金銀兩替差求又或ハ金銀地金等ヲ賣却セントスルカ又ハ品觸似寄ノ物アルキハ最寄警視署又巡行ノ巡查ニ密告スル者ハ罰金此規則ニ違背スル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラル可シ

○兩換屋開業シ者ハ組合頭取加印區戶長ノ與印ヲ以テ更ニ當本署ニ鑑札ヲ受テ可シ無鑑札ニテ營業相成ラズ此旨布達候事全三十三年一月甲

○玉突并吹矢場開業候者ハ警視本署へ願出免許鑑札ヲ受テ此旨布達候事全三十二年十月甲

○不但廢業候者ハ鑑札添所轄分署ニ届出テ此旨布達候事全三十二年十月甲

○湯屋、玉突場、吹矢場及ヒ俳優、諸藝人開廢業或ハ鑑札書替願届等自今區戶長ノ與印ヲ受テ差出テ此旨布達候事全三十二年十月甲

○室内射的銃空氣發銃等ヲ以テ營業場ヲ開設セントスルモノハ區戶長ノ與印ヲ受テ其取扱手續及ヒ場所構造ニ圖面ヲ添へ警視本署へ願出鑑札ヲ受テ此旨布達候

事

但從前營業ノモノ來ル三十一日迄本文ニ準シ鑑札願

○吹矢及球戯場無鑑札ニテ營業スベカラス且夜間十二時

限リ閉場スヘシ若シ之ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ

罰セラルベシ此旨布達候事甲十五年六月

○本年十月第四拾七號布達小形旅客瀛船取締規則左之通

改正候條此旨布達候事全五十四年十二月甲（府知事）

○小形旅客瀛船取締規則

第一章 總則

第一條 小形旅客瀛船トハ專ラ行旅ヲ乘載シテ航行ス

ル公稱馬力五十未満ノ瀛船ト云フ但馬力五十以上ノ

瀛船ト雖モ船體機關航路等ノ狀況ニ依リ特ニ本則ヲ

遵守セシムルコトスルヘシ

第二章 允許及検査

第三條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ區ハ區長郡ハ

戸長ノ與印ヲ捺シタル願書ヲ警視廳ヘ呈出シ允許ヲ

受ケルヘシ

第三條 願書ニハ下ニ掲クル甲號雛形ノ明細書ヲ副ヘ

船體機關等ノ検査ヲ請フヘシ

但船數ヲ增加シ或ハ船體機關ヲ改造修理スルトキ

ハ本條ノ手續キニ依リ検査ヲ受クルモノトス尤モ

其修理改更一小部ニ係ル者ハ其部分ニ限リ記載ス

ルモノトス

其修理改更一小部ニ係ル者ハ其部分ニ限リ記載ス

ルモノトス

第四條 検査ノ上完全ト認ムルモノハ乙號離形検査證書ヲ下附ス可シ證書ヲ所持セシ又船體機關等ヲ修理改更後検査ヲ受サシモノハ運用スルヲ許サズ

第五條 廢業ナルモノハ允許狀並検査證書ヲ返納シ又所有中一船ヲ運用スルモノハ該船ノ検査證書ヲ返納ス可シ

第六條 他人へ讓渡スルニ讓受人該船ニ毫モ變更或ハ修理ヲ加ヘズ且後期検査以前ヲ越シテ更ニ検査ヲ行ハズ證書ヲ付與スルコトアル可シ

第七條 船體機關ニ毎十ヶ月ニ一回ノ検査ヲ行ヒ故障生キモノハ其都度検査證書ヲ交換ス尤モ定期ニ拘ラズ臨時検査ヲ行フコトヲ得

第八條 爾後ノ定期検査ヲ運用ニ堪ヘサルモノト認ムルトキハ検査證書ニ其脆弱ノ部分並ニ堪フ可キ時限ヲ記載スルモノトシ

第九條 定時臨時ノ検査ヲ問ハズ検査員ニ於テ船體機關等ニ故障アリト認ムルモノハ本船ヲ運用スルヲ停止シ修理若シハ改造ヲ命ズ

第十條 他管地ニ於テ漁船ヲ製造修理セシ者ハ該製造所ヨリ其旨ヲ記載シタル證書ヲ受取リ歸航中臨時ノ尋問ニ方リ之ヲ開示スルモノトシ

第十一條 航路及ヒ發着ノ場所時間並ニ船長ヲ變更スル下キハ書面ヲ以テ届出シ

第十二條 第三章本船ヲ體ニ

第十二條 船側並ニ甲板面ハ填詰ヲ以テ充分罅隙ヲ塞

キテ水ノ漏泄ヲ防キ尙ホ兩舷ニ必ス水吐孔ヲ設ク

第十三條 甲板面ニ設クル出入及ヒ荷積口ハ其縁材ヲ

甲板面ヨリ高フシテ水ノ艙内ニ流入スルヲ防キ且ツ

之ヲ密閉スルノ外套ヲ備フ

第十四條 甲板上船舷ナキモノハ必ス周圍ニ鐵製或ハ

木製ノ欄干ヲ設ケテ高サ二尺ヨリ低カラシム

第十五條 船名ヲ船體或ハ車廂ニ又造船者ノ氏名(或ハ

社名)及ヒ製造年記地名ヲ船内最モ見ヘ易キ所ニ明記

第十六條 船ノ脚入ハ必ス喫水線ニ超過セシムヘカラ

ス又脚尺ヲ船體ノ右ノ方ニ於テ喫水線以下ニ附シ脚

入三尺以上ナルモノハ一尺毎ニ三尺以下ナルモノハ

五寸毎ニ其度ヲ刻ス

第十七條 空氣流通ノ爲メ窓口ヲ設クルモノハ堅固ノ

戸扉ヲ備フ

第十八條 機關室ハ延鐵ヲ覆タル板ヲ以テ客室ト分別

ス可シ

第四章 本船屬品

第十九條 橋下ヲ航行ス可キモノハ儘レ煙突ヲ備ヘテ

苟モ自他ヲ危害スルノ虞ナカラシム可シ

第二十條 端舟ヲ釣リ得ヘキ船體ニ於テハ必ラス之ヲ

備ヘ且ツ其附屬品ヲ整備ス

三七二

第二十一條 舵ハ其取附ケ堅牢ニシテ必ラス豫備ノ轉

舵索ヲ船尾ニ備フ可シ

第二十二條 羅盤及ヒ救命浮子各一個以上ヲ備フ可シ

第二十三條 錨ノ斤量個數ハ船ノ噸數ニ適合スルモノ

ヲ備ヘ又錨鎖ハ充分之ニ堪ヘ且ツ相當ノ長サアルモノヲ用フ可シ

第二十四條 火災豫防ノ爲メ適當ノ消防器ヲ備フヘシ

第二十五條 掲燈及ヒ信號器ハ明治十三年太政官第三

十五號布告ヲ遵守シタルモノヨシテ其舷燈ノ隔板ハ位置正シク左右舷燈相反射セサラシムヘシ

第二十六條 漁笛及ヒ號鐘ハ其音響ニ障礙ナキ場所ニ

裝置シ號鐘ハ内徑六寸六分以上ニシテ音響ノ能ク達

スルモノヲ備フヘシ

第二十七條 甲板上何レノ場所ヲ問ハス漏水ヲ排出ス

可キ汚水唧筒一個以上ヲ備フヘシ

第五章 漁機

第二十八條 罐中焰管ハ鑄鐵ヲ用ユルヲ許サス

第二十九條 船外ニ通スル各管ニシテ吃水線近傍若クハ其以下ニ設クルモノハ必ラス嘴子或ハ瓣ヲ備フ可シ

第三十條 冷氣器ヲ設クル機關ハ正當ナル驗氣器ヲ備

フ可シ

第三十一條 漁罐ハ豫テ水試験ヲ經タルモノニテ平常

用ユル漁力ニ對シ新罐ハ其二倍古罐ハ用ユル以上ヲ加

へタル水壓ニ堪ユルモノヲ用ユ可シ
第三十二條 安全弁ハ每罐ノ火床面積ノ一平方尺毎ニ
必ラス二分一平方寸ノモノ二個ヲ備へ平常用ユル蒸
力ニ對シ錘量ヲ定メ内一個ハ外套ヲ備へ鎖鑰ヲ施シ
之ヲ緊鎖ス可シ

但検査員ノ立會ナクシテ之ヲ開ク可カラス

第三十三條 驗氣器驗鹽器驗温器ハ時々試験ヲ施シ誤
謬ナキモノヲ備フ可シ

第三十四條 驗水器ハ每罐硝子製ノモノト試嘴二個以
上トヲ備フ可シ

第三十五條 蒸氣ニ座以上ヲ湊合スルキハ每罐ニ塞氣
弁ヲ備フ可シ

第三十六條 蒸氣ヲ噴出セシムルヲメ必ラス排氣管ヲ
備フ可シ

第六章 雜則

第三十七條 船内ノ燈火ハ安全ニシテ堅牢ノ器ヲ用ヒ
且ツ船内ハ燈火ノ外一切火ヲ用ユヘカラス

第三十八條 船内ニ於テ石炭油其他揮發性ノ油ヲ用ユ
可カラス

但船體蒸機ニ必用ナル油類ハ此限ニアラス

第三十九條 物貨ヲ積ムハ船内ニ限ル可シ尤モ船内ニ
積込ム能ハサル物品及ヒ手荷物ハ此限ニアラス

第四十條 每客室ニハ允許狀及ヒ検査證書ノ寫本並ニ
乗客ノ賃錢表ヲ貼付ス可シ

但乘客賃錢表ハ必ラス警視廳ノ檢印ヲ受ク可シ
第四十一條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ノ罰ニ
處スヘシ

第四十二條 右處分ノ上其情狀ニ依リ犯則者ハ警視廳
ニ於テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコアル可シ

明細書雛形

(甲號)

明治何年何ノ地ニ於テ

何ノ誰製造

何町何番地

一船名

鐵製或ハ木製

持主

甲板長サ何十尺

甲板下最大ノ巾何十尺

甲板下ヨリ龍骨上迄深サ何十尺

一 外 車 機 械

一 二 個

一 蒸 力 平 常 用 ヲ
最 大 ノ カ

何 斤

一 公 稱 馬 力

何 十

一 噸 數

何 噸

一 繫 留 地

何 岸

一 發 着 定 時 間

一 航 行 ス ル 沿 路 地 名

地 名

族 籍

船 長

何

誰

右之通御座候

明治年月日

族籍

何之誰

(乙號)

第何號 證

一船名 鐵製或木製

族籍

持主氏名

本船

船體 噸數

機關

公稱馬力 蒸氣力

事故

右檢查之上授與之

年月日

警 視 廳 印

檢 查 人

何ノ誰印

○房總其他へ航行ノ小形蒸船ニ於テ薪ヲ用ヒ候ヨリ火ノ子飛散ノ危険不少候ニ付追テ何分ノ義相達候迄薪ヲ用ヒ候儀不相成候條此旨該營業人へ可相達事全十四年四月乙第二號布達

第四十五條

(刑、四、二、八、五)

官許ヲ得スシテ劇場其他觀

物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者

○劇場取締規則左之通相定候條此旨布達候事全十五年二月甲第二號布達

劇場取締規則

第一條 劇場ハ十座ヲ以テ定限トス但一人一座ヲ限リ

免許スルモノトス

第二條 劇場并劇場茶屋及ヒ俳優ノ營業ヲナサントス

ル者ハ警視廳ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ但住所姓

名ヲ變換スル等ノコアレハ鑑札ノ改削ヲ請ヒ廢業ノ時ハ之ヲ返納ス可シ

第三條 劇場ヲ新築シ又ハ改造セントスルハ圖面并仕法書ヲ添へ警視廳ニ願出免許ヲ受クヘシ尤建築起功落成ニ全應ニ届出檢査ヲ受ケ認可ヲ得ルノ後ニアラサレハ興行スルヲ得ス

第四條 第二條第三條ニ係ル願届ハ區ハ區長郡ハ市長ノ奥印ヲ受クルモノトス

第五條 劇場營業ノ免許ヲ得テ滿三年間興行セサルハ免許ノ効消滅スルモノトス

第六條 演劇ヲ興行セントスルハ少クモ一週日前ニ仕組帳ヲ副へ警視廳ニ届出認可ヲ受クヘシ且興行ノ

始終ニ前以同廳及ヒ所轄警察署へ届出ツニシ

第七條 凡劇場ニ關スル一切ノ事ハ座主其責ニ任スヘシ

第八條 警視廳ハ委員ヲシテ時々演劇ヲ臨檢セシム場内ニハ常ニ其席ヲ設クベシ

第九條 興行中取締ノ爲メ巡查二名以上ノ臨場ヲ請求スヘシ

但一切ノ費用ハ座主之ヲ辨出スルモノトス

第十條 仕組帳外ノ所作ヲ演スヘカラス

第十一條 看客ヲ樂屋ニ入ラシムヘカラス

第十二條 向棧敷ニ定員外ノ看客ヲ入ルヘカラス

第十三條 興行ハ午後十二時ヲ過クヘカラス

第十四條 烈風ハ勿論平常ト雖火災ノ虞ナキ様篤ク

注意シ且適宜ノ防火具ヲ豫備スヘシ

第十五條 便所ハ勿論總テ場中ヲ淨掃スヘシ

第十六條 劇場茶屋ニ於テ看客ヲ宿泊セシム可カラズ

第十七條 演劇ノ所作仕組帳外ニ出ルカ若クハ猥褻ニ

涉リ又ハ世安ニ妨害アリト認ムルキハ第八條ニ記シ

タル臨檢官吏ニ於テ一時興行ヲ停止スルコアルベシ

第十八條 此規則ニ背キタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラ

ル、ノ外警視廳ニ於テ其營業ヲ停止若クハ禁止スル

コアルベシ

○諸觀セ物興行願之儀自今場所建設ノ日數ト建設ヲ用ユルニカ又ハ從前補理興行場等ニテ直チ興行日數ヲ區別シ願

ニカ又ハ從前補理興行場等ニテ直チ興行日數ヲ區別シ願

書ヘ記載可致此旨布達候事

但興行日數ヲ經過シ閉場不致分ハ許可ノ效ナキモノ

ト可相心得事全二十年八月甲第

○小屋掛諸觀セ物興行之儀ハ日没ヲ限リ閉場可致此旨布

達候事全二十年八月甲第

第四十六條(警)馭者馬丁又ハ人力車輓等取締規

則ニ違背シタル者

○人力車取締規則左之通相定來ル明治十五年一月一日ヨ

リ施行候條此旨布達候事全五十四年十二月甲(府知事)

但從前營業之者ハ規則ニ準シ組合ヲ設ク鑑札受取方

願出ヘシ

人力車取締規則

第一條 人力車ノ營業ヲ爲サントスルモノハ警察署一管內毎ニ組合ヲ設ケ第一號第二號書式ニ準シ組合頭取加印ノ上區ハ區長郡ハ戶長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署へ願出鑑札ヲ受ケ廢業ノ節ハ之ヲ返納スベシ尤組合ハ便宜ニ依リ合併スルヲ得

但雇人ニ車ヲ輓カシメ營業スルモノハ雇人壹人コ付鑑札壹枚ツ、願ヒ受クヘシ

第二條 人力車營業者トハ人力車ヲ貸シ又ハ自ラ所有車ヲ輓キ或ハ雇人ニ輓カシメ及ヒ借車ヲ輓キ營業ト爲スモノヲ云フ

第三條 人力車所有ノモノハ其住所姓名及ヒ車ノ番號ヲ記シタル木札ヲ長四五寸車ノ蹴込右方ニ釘付スヘシ

第四條 賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ警視廳ノ認可ヲ受ケ車ノ蹴込正面ニ表記スヘシ

第五條 人力車ヲ輓クモノハ鑑札ヲ顯帶シ何人ニ限ラズ要用ノ場合ニ於テ見ノコヲ求ムルトキハ之ヲ示スヘシ

第六條 轉居改姓名及ヒ鑑札ヲ遺失毀損シ若クハ雇人ヲ更換シタルキハ第三號第四號書式ニ準シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ但轉居改姓名及ヒ雇人更換ヲ除ク外區戶長ノ與印ヲ要セス

第七條 鑑札ヲ貸借シ及ヒ檢印ヲ轉用ス可カラズ

第八條 車内ニ遺留品アルキハ其主分明ナルハ之ヲ還付シ然ラサルハ速ニ警察署へ届出ヘシ

第九條 往來雜沓ノ場所若クハ街角橋梁ヲ通過スルキハ徐行シ且懸ケ聲ヲ爲スヘシ

第十條 軍隊及ヒ車馬ニ行逢フキハ左ニ避ケ及ヒ坂路ハ上リ車之ヲ避クヘシ尤モ郵便馬車ニ行キ逢フキハ殊ニ避讓ニ注意スヘシ

第十一條 前車徐行シ後車疾行スルキハ後車懸ケ聲ヲ爲スヘシ前車ハ便宜之ヲ避ケ後車ヲ通過セシムヘシ

第十二條 行人ニ對シ強テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢無禮ノ言行ヲ爲スヘカラス

第十三條 乗客ニ對シ約束外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第十四條 猥リニ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十五條 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ヘ輓

キ入ルヘカラス

第十六條 壹人乗ニ貳人貳人乗ニ三人以上ヲ乗スヘカラス但十歳未滿ノ者ハ貳人ヲ以テ壹人ト看做シ保護人アル三歳未滿ノ者ハ定員外トス

第十七條 失火場三丁以内ニ車ヲ入ルヘカラス

第十八條 車ヲ並ヘ輓キ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十九條 壹人ニテ貳輛以上ノ車ヲ連テ輓クヘカラス但空車貳輛ヲ連ヌルハ妨ケナシ

第二十條 往來ノ妨ケトナルヘキ場所ニ車ヲ駐止スヘカラス

第二十一條 街燈アル地ヲ除ク外夜中燈火ナクシテ車ヲ疾驅スヘカラス

第二十二條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ罰
セラル、ノ外警視廳ニ於テ營業ヲ禁止スルコトアル可
シ

第二十三條 自用人力車ニ在テハ此規則第一條ヨリ第
八條迄及第十三條第十三條ヲ除ク外ハ之ヲ遵守ス

第一號書式

私儀借入人力車所有人力車ヲ輓夫雇入營業仕度候間鑑札御渡方奉
願候也

何郡(區)何町(村)何番地(寄留)

(何府縣)士族(平民)

年號月日

何誰印

年 齡

組合頭取 何誰印

警視總監姓名殿

當區(村)内在籍者ニ相違無之候也

何區長(何戶長)姓名 印

第二號書式

何郡(區)何町(村)何番地(寄留)

(何府縣)士族(平民)

何誰

年 齡

右ノ者雇入レ人力車ヲ輓カセ度候間鑑札御渡方奉願
候也

(雇主住所姓名及與書等都テ前ニ同シ)

第三號書式

私儀何郡(區)何町(村)何番地ヨリ何郡(區)何町(村)何番地へ
移住候ニ付(御渡ノ鑑札遺失紛失又ハ毀損或ハ改姓名
仕候ニ付)鑑札御書換御渡方奉願候也

(住所姓名及ヒ與書等都テ前ニ同シ)

第四號書式

何郡(區)何町(村)何番地(寄留)

(何府縣)士族(平民)

解雇

何誰

同上

同上

雇入

何誰

年齢

右ノ通雇入雇替候間鑑札御書替奉願候也

(雇主住所姓名及ヒ與書等都テ前ニ同シ)

○馬車取締規則左之通改正來ル明治十五年一月一日ヨリ

施行候條此旨布達候事全十四年十二月甲府知事
第五十五號布達(連署)

但從前營業者ハ右規則ニ照準シ鑑札受取方願出

馬車取締規則

第一條 乗合馬車貸馬車荷馬車ノ營業ヲ爲サントスル

者及ヒ乗合馬車ノ馭者馬丁タルヘキ者ハ第一第二號

書式ニ準シ區ハ區長郡ハ郡長ノ與印ヲ受テ警視廳へ

願出鑑札ヲ受クヘシ但廢業ノ節ハ鑑札ヲ所轄警察署

へ返納スヘシ

第二條 馭者ハ滿二十歳以上タルヘシ但技術ノ巧拙ヲ

検査シ許否スルモノトス

第三條 轉居改姓名及ヒ鑑札ヲ遺失若クハ毀損シタル

モノハ第三號書式ニ準シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑

札ヲ受クヘシ尤轉居改姓名ヲ除クノ外區戶長ノ奥印

ヲ要セス

第四條 馭者馬丁ハ鑑札ヲ顯帶シ何人ニ限ラズ要用ノ

場合ニ於テ見シコサ求ムルハ之ヲ示スヘシ

第五條 鑑札ヲ貸借シ及ヒ檢印ヲ轉用ス可カラズ

第六條 乗合馬車ハ其所有主ノ住所姓名及ヒ乗客ノ定

員ヲ記シタル木札(長七寸 巾五寸)ヲ車體後面見易キ所ニ釘付

第七條 乗合馬車ノ構造及ヒ乗客定員ハ左ノ各項ニ從

フヘシ

一 四輪ニシテ運轉自在且堅牢ナルモノ但屋上ニ客座

ヲ具フルヲ得ス

二 腰掛臺巾一尺一寸以上ヲ以テ一人ノ度トス

三 乗合馬車ハ馬一匹ニ付乗客六人ヲ以テ限リトス

四 乗客十歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ保護

人アル三歳未滿ノモノハ定員外トス

第八條 乗合馬車ノ車體並馬匹ハ毎月一回日割ハ第四

警視廳ニ於テ検査ノ上其證ヲ付ス履業ヲ節シ之ヲ所

轄警察署へ返納スヘシ又主務官吏ヲ派シテ臨時検査

セシムルコトアルヘシ
但検査定日事故アリ不参ノモノハ其旨届出指圖ヲ
受クヘシ尤モ當日大祭祝日ニ當ルキハ其次日（日曜
日）順延ハテ以テス

第九條 検査上左ノ二項ニ觸ルハモノハ其使用ヲ許サ

ス

一 車體脆弱ニシテ危険ノ虞アルモノ

二 馬匹疾病毀傷其他衰弱シテ馳驅ニ耐ヘスト思量ス

ルモノ

第十條 定期検査ヲ受ケサル車馬ハ使用スルヲ許サス

但検査證ハ馭者常ニ携帯スヘシ

第十一條 乗合馬車ノ立場ハ其地ノ圖面ヲ以テ警視廳

へ出願允許ヲ受クヘシ但立場ノ掃除ハ該營業人ノ負
擔トス

第十二條 賃錢ハ警視廳ノ認可ヲ受ケ車中見易キ所ニ
之ヲ表記スヘシ

第十三條 車内ニ遺留品アルキハ其主分明ナルハ之ヲ
還付シ然ラサルハ速ニ警察署へ届出ヘシ

第十四條 傳染病或ハ瘋癲又ハ亂醉者ト看認ルルキハ
乗車セシムルヘカラス若シ乗客中傳染病者アルキハ速
ニ最寄警察署若クハ巡查屯所同派出所又ハ巡行巡查
へ届出ヘシ

第十五條 往來雜沓ノ場所若クハ街角橋梁ヲ通過スル
キハ徐行シ且懸ケ聲ヲ爲スヘシ

第十六條 軍隊及ヒ車馬ニ行逢フ時ハ左方ニ避ケ坂路
 ハ上リ車之ヲ避クヘシ尤モ郵便馬車ニ行逢フ時ハ殊
 ニ避讓ニ注意スヘシ

第十七條 前車徐行シ後車疾行スルキハ後車懸ケ聲ヲ
 爲スヘシ前車ハ便宜之ヲ避ク後車ヲ通過セシムヘシ

第十八條 行人ニ對シ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢無禮ノ
 言行ヲ爲スヘカラス

第十九條 約束外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第二十條 濫リニ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十一條 濫リニ狹隘ノ小路ヲ疾驅スヘカラス

第二十二條 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ入
 ルヘカラス

第二十三條 失火場三丁以内ニ入ルヘカラス

第二十四條 馬車ヲ並ヘ馳セ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十五條 行人ノ妨ケトナル場所ヘ駐止スヘカラス

第二十六條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第二十七條 馬匹ヲ慘酷ニ鞭撻驅逐スヘカラス

第二十八條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セ
 ラル、ノ外警視廳ニ於テ營業ヲ停止又ハ禁止スルコ
 アルヘシ

第二十九條 途上ニ於テ危險ノ虞アリト思量スル馬車ハ
 巡查ニ於テ一時其使用ヲ停止スルコアルヘシ

第三十條 馬夫自ラ率キ馭者ヲ用ヒサルモノ其他營業
 ニアラサルモノハ此規則第一條ヨリ第十四條迄及ヒ

第十八條第十九條ヲ除外之ヲ遵守スヘシ

第一號 書式

私儀左ニ記スル馬車ヲ以テ營業仕度候間鑑札御渡方奉願候也

何郡(區)何町(村)何番地(寄留)

(何府縣)士族(平民)

年號月 日

何 誰 印

警視總監姓名殿

一乘合馬車(貸馬車荷馬車)

何 輛

一馬

何 匹

當區(村)內在籍ノ者ニ相違無之候也

何區長(何戶長)姓名印

第二號 書式

私儀馭者(馬丁)營業仕度候間鑑札御渡方奉願候也

(住所氏名及與書等部テ第一號ニ同シ)

第三號 書式

私儀何郡(區)何町(村)何番地ヨリ何郡(區)何町(村)何番地ヘ移轉仕候間(御渡)鑑札遺失(紛失)又ハ毀損仕候ニ付鑑札御書換(御渡方)奉願候也

(住所氏名及與書等部テ第一號ニ同シ)

第四號 車馬檢査日割

第二月曜日 麴町區 日本橋區

同 火曜日 神田區 赤坂區

同 水曜日 牛込區 淺草區

同 木曜日 芝區 小石川區

同 金曜日 四谷區 下谷區 本所區 北區 荏原郡 東多摩郡 南足立郡 南葛飾郡

同 木曜日 京橋區 麻布區 本郷區 深川區

一 檢査ノ日ハ午前第八時出頭之事

第四十七條(五全上) 諸藝人取締規則ニ違背シタル

者

○音曲諸藝人之内物真似并道化茶番之義ハ詮議之筋有之

自今興行禁止候條此旨營業人へ可相達事全三十年十月乙

但鑑札ハ來ル十日迄ニ頭取ニ於テ取纏返納可爲致事

○角觥並行司取締規則及興行場取締規則左之通相定候條

此旨布達候事全十一年二月甲

角觥並行司取締規則

第一條 角觥及行司タラント欲スル者ハ其區戶長並組

合取締ノ奥印ヲ以テ警視本署へ願出鑑札ヲ受ク可シ

第二條 居所ヲ轉スル時ハ第一條ノ手續ヲ以テ鑑札書

換ヲ願出ベシ

但廢業ノ節ハ所轄分署へ鑑札相添へ届出ツベシ

第三條 角觥及行司ハ東京府下ホ一組トナシ角觥ハ年

寄、行司ハ重立タルモノコテ年番ヲ定メ組合取締ヲナ

スベシ

但年番交換之都度其姓名届出ツベシ

第四條 無鑑札ノ者及組合ニ入ラズシテ其業ヲナスヲ

許サズ

興行場取締規則

第一條 興行之節ハ該地戸長ノ奥印ヲ以テ警視本署へ願出ツヘシ

第二條 興行場取締筋ハ出張警視官吏ノ指揮ヲ受クベシ

第三條 看客ノ安全ヲ保タンガ爲メ棧敷ノ構造ヲ堅固

ニスベシ

第四條 便所ハ毎日掃除シ其他不潔物アラハ速ニ除棄

スヘシ

第五條 看客ノ散スルキハ木戸口ノ雜沓ヲ制シ怪我等

無カラサル様厚ク注意スヘシ

第六條 興行場ニ於テ看客勝負ニ事寄ル賭博ニ類スル

所業アラハ速ニ出張ノ警視官吏ニ密告ス可シ

第七條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラ
ル可シ

○第四款 風俗

第四十八條 (刑、四、二) 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合

容止ヲ爲シタル者 第一章第
二款參照

第四十九條 (刑、四、三) 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈

禱符咒等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者

第五十條 (刑、四、三) 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業

ヲ爲シタル者

第五十一條 (全上) 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業

トスル者

○三五
第五十二條 (刑、四、二) 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ

三
テ制止ヲ背セサル者
六
第五十三條(全上) 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉

臥シタル者

第五十四條(警) 裸體又ハ袒裼シ或ハ股脚ヲ露シ

其他醜體ヲ爲シ路上ニ行歩シタル者

第五十五條(全上) 新聞紙、雜誌、雜報類ヲ路上ニ讀

ミ賣シタル者

○新聞紙及ヒ雜誌類ヲ讀賣候義自今一切不相成候條此旨

布達候事全十二年十二月甲

第五十六條(警) (廢止)

○諸社神興巡行出願ノ節ハ明治七年六月東京府達ニ準シ
必ズ昇夫人員ヲ定メサセ共定員外ノモノハ決テ加ヘサ

ル様祠官祠掌ノ内ノ及ヒ氏子町村總代又ハ世話人等へ
示諭シ請書ヲ徴シ許可スヘシ此旨相達候事全十五年七月
號十七

但明治六年舊教部省第二十九號布達之趣意ニ不觸様
本文同様告諭スヘシ

○(照參) 諸神社祭禮神興渡御ノ節往々祭儀ニ托シ粗暴ノ所
業有之或ハ途中ノ人家ニ觸レ或ハ往來ノ妨害ヲ爲ス
等許多ノ弊害不勘候趣相聞不都合ノ至リニ候條向後
取締方精々注意シ粗暴ノ所業無之様可致此旨布達候
事全六年九月廿三日
教部省第廿九號

○(照參) 各社神興巡行ニ付種々濫雜之所業多分有之中ニハ
神興ハ氏子ノ者玩弄物ニ致シ神官モ傍觀不可制勢從

來之弊習甚不體裁之至付テハ別記々條相認メ出願都

テ神事嚴肅執行致候様此段相達候事全七年六月九日東京府達

別記

一各社大祭並神輿巡行ノ節組合他社ヨリ神官頼入候者人名別記可差出事

一神輿巡行々粧ハ兼テ順序相立略圖相添可差出事

一神輿昇夫ハ勿論行粧圖面定員之外妄リニ増減不相

成候事

一各社神官ニ無之者祭典ノ節神事爲取扱候儀ハ不相

成候事

以上

右々條之通相心得祭典五日前迄ニ詳細取調戸長加印之

上願出可申事

○紙屑拾ヒ紙屑買並ニ下足直シ渡世ノ者從來ノ習慣ニテ
白晝ト雖モ手拭ヲ以テ面部ヲ覆ヒ徘徊致候者儘有之甚
以テ醜體ノミナラス不取締ノ義ニ付自今右風體ニテ徘徊
候義不相成候條此旨渡世筋ノ者ニ可相達事全九年六月
達號 第三百七十

○第六款 雜

第五十七條(刑、四、三)官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シ

タル者

第五十八條(全、上)自己ノ所有地内ニ死屍アルコト

ヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル

九〇三 者

一三
第五十九條(全上) 人ノ住居セサル家屋内ニ潛伏シタル者

第六十條(全上) 定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

第六十一條(全上) 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

○別紙之通御達有之候間各區無洩可相達者也全七年七月外

(別紙) 全七年六月

墳墓ノ儀ハ清淨ノ地ニ設ケ永遠保存スル候處府下從前墳墓市街ニ相望ミ往々街區路線ノ改正ニヨリ發柩改葬等有之人情ノ恐ヒサル次第ニ付朱引内從前ノ

墓地ニ於テ埋葬ヲ禁シ更ニ九ヶ所ノ墓地ヲ設ケ別冊ノ通取扱規則相定來九月一日ヨリ施行可致此旨相達候事但朱引外墓地ハ從前ノ通可相心得事

墓地取扱規則 第一則

一 東京府下朱引内從前ノ墓地ニ於テ自今埋葬ヲ禁シ左ノ九ヶ所ヲ以テ墓地ト定メ埋葬セシム可キ事

第七大區 小區

澁谷羽根澤神葬祭地

第八大區 小區

青山百人町續 同斷

全區

青山 同斷

第九大區一小区

染井 同斷

全區

雜司ヶ谷旭出町

第十大區一小区

谷中天王寺

全四小区

小塚原舊火葬地

第六大區一小区

深川元三十三間堂神葬祭地

第十一大區三小区

龜戸出村羅漢寺

第二則

一右墓所ノ義ハ會議所ニ於テ墓所取扱所相設管轄セシムル事

第三則

一右墓地ノ義ハ除稅地トシ區入費等差出ニ不及候事

第四則

一墓地ノ廣狹ハ一棺方四半坪一坪分一四乃至一坪ヲ以テ通常トス然レモ死者ニ長幼アリ葬禮ニ厚薄アレハ喪主ノ適宜ニ任ス可シ然レモ二合半以下縮減ス可カラサル事

第五則

一 棺ノ葬地ハ四半坪分一坪一四乃至一坪ヲ以テ通常トス
レハ一家ノ死者每一棺ニ其地ヲ異ニスルニ至ル者アリ
就テハ永世一家埋葬ノ墓地ヲ買購セシムコトヲ欲スル
者ハ取扱所ニ可申出事

第六則

墓所ハ除税ニ屬シ區入費ヲ出スヲ要セスト雖モ取扱
入費トシテ地價ヲ定メテ之ヲ賣渡ス可シ尤地ニ善惡
ノ差等アレハ價モ從テ高低ナキアタハス故ニ左ノ等
級表(ス略)ノ通區畫ヲ定メ等差ヲ設テ以テ葬主ノ望ニ
隨ヒ地價可取立且其墓地所有ノ證トシテ末紙雜形(ス略)
之通券狀ヲ作り墓主ニ可相渡事

但各所ノ墓地共其區畫差等ノ目標ヲ立且取扱所ニ

於テモ其墓地ノ繪圖ヲ作り區畫差等ヲ明ニシ葬主
ノ選ニ便ナラシム

第七則

一 取扱所并修繕等ノ費用ハ地價ニテ不足セル分ハ墓地
等級廣狹ニ賦課スヘキ事

第八則

一 費用ノ義ハ半年毎ニ取扱所ニテ割合帳ヲ作り區長ニ
送付スヘシ區長ハ之ニ據リ各墓主ヨリ取立三十日ヲ
限リ取扱所ニ納付スヘキ事

第九則

一 費用ハ半年毎ニ收ム可キ者ト雖モ墓主ノ便宜ニヨリ
凡積ヲ以テ爾後二三ケ年分或ハ數ケ年分或ハ永世分

ナ一時ニ納メント欲スル者アレハ取扱所ニ預リ總テ
之ヲ帳簿ニ記載シ受取證書ヲ渡シ入費仕譯ハ毎年表
ヲ作り公布スヘキ事

第十則

一 地價并費用收入ノ金額ハ月纏メ明細帳其他諸帳簿ヲ
整理シ置キ墓主等ノ望ニ依リ其檢閲ヲ許スヘシ又
時トシテ本府官員出張檢査スルアルヘキ事

第十一則

一 取扱所ニ於テ諸費用等ノ分賦不相當ノ儀有之トキハ
其墓主等ヨリ直ニ府廳ヘ訴ヘ出ヘキ事

第十二則

一 墓地六月十二月兩次ノ掃除ハ取扱所ニテ之ヲ爲ス可

シト雖モ其他毎日毎月或ハ祭日ノ掃除香花ハ其墓主
ニ於テ爲スヘシ尤墓主ノ便宜ニヨリ之ヲ取扱所ニ托
セント欲スル者ハ取扱所ニ於テ引負粗略アル可カラ
サル事

但掃除香花料等幾月幾年分ニテモ前以受取ヘシ

第十三則

一 墓地總體ノ周圍ノ門扉等ハ取扱所ニ於テ爲スト雖モ
其墓側ニ垣牆ヲナスカ或ハ草木ヲ植ル等ハ其墓主ノ
勝手タルヘク尤モ之ヲ取扱所ニ托セント欲スル者ハ
相當ノ費用ヲ受取リ取扱所ニ於テ之ヲ爲ス可キ事

第十四則

一 寄留旅客及ヒ宿送ノ者死去シ埋葬資金ヲ所有セサル

カ又ハ府下ニ親戚故舊ノ之ヲ收葬スル者ナキ時ハ假
ニ公葬地ノ區域中ニ埋葬シ退テ本貫ノ地方廳へ申送
リ其家族或ハ親族ヨリ埋葬費用取立へシ且其親戚故
舊ヨリ他へ轉葬或ハ墓所中ニテ地所買求メ改葬セ
ト請フモノアレハ之ヲ許スヘキ事

但本籍不相分者三月間標示スヘキ事

一夫婦ノ内一人前死致シ朱引内寺内へ埋葬有之夫ガ爲
メ後死ノ者同所へ合葬致度相望候ハ、區戸長へ申出
戸長ニ於テハ事情關結不都合無之候ハ、加印イタシ
其本人直ニ可届出事

但無謂合葬ヲ名トシ朱引内へ埋葬不相成事

一今一ケ年ニ限り貧民ニテ埋葬ノ地價一時難差出者ハ

五ケ年賦ヲ以テ出金致候義不苦候事

但本文ノ如キハ葬地ノ内下々ノ場所相渡且鰥寡孤
獨ノ者無代價ノ事

○其島吹磯山下及ヒ大村西地先山上ニ於テ各千坪ヲ分畫
シ墓地ト相定候條一戸六坪以内使用ノ積リヲ以テ出張
所へ願出スヘシ此旨相達候事全十五年三月全乙達二

第六十二條(全上) 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ

偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カ
レタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第六十三條(刑四二) 變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋
葬シタル者

九一三 ○(參照) 官廳内并ニ官有ノ工場及ヒ船艦等ニテ變死ニ係ル

者及ヒ重傷死ニ至ル者ハ近傍ノ警察所へ報知シ檢視
ヲ受クヘシ三十四年二月第

但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限リ處分ヲ了シ警察官
檢視ヲ要セサル分及ヒ遠洋航海中ニ係ル者ハ此限
ニアラス

第六十四條(全上)墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ

又ハ汚瀆シタル者

第六十五條(全上)神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚

損シタル者

第六十六條(全上)公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但

訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第六十七條(刑、四二)死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋

葬シタル者

〇死亡届并埋葬證規則左ノ通相定メ本年八月一日ヨリ施

行候條此旨布達候事全十三年七月東京府
甲第七十五號布達

死亡届并埋葬證規則

第一條 醫師施治ノ患者死亡スルキハ即時第一號雛形

(ス略)ノ届書ニ其病名經過ノ年月死ニ至ルノ原因等ヲ記

入シ調印ノ上死者ノ家人ニ與フヘシ但數人ノ醫師ニ

テ施治ノ患者ハ其主任ノ醫師ヨリ該届書ヲ與フヘシ

第二條 醫師及ヒ産婆ハ妊婦三ヶ月以上ニシテ流産或

ハ死胎分娩シタル者ハ即時第二號雛形(ス略)ノ届書ニ妊

娠ノ月流産或ハ死胎分娩ノ原因、月日等ヲ記入シ調印

ノ上其家人ニ與フヘシ

但出產ノ后一旦呼吸シテ死セシ者ハ出產届ヲ爲シ
更ニ死亡届ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 死者ノ家人ハ必ス醫師ノ届書員ノ死人ハ立會醫

ヲ請求シテ自家ノ届書ト共ニ郡區役所ヘ差出シ埋葬

免許證ヲ受ケテ之ヲ墓地監者寺院ニテ監者ヲ兼ヘ差

出スヘシ

第四條 流産三ヶ月以上或ハ死胎分娩ノ者ハ醫師若ク

ハ産婆ノ届書ヲ請求シテ區ハ區役所郡ハ局長役場ヘ

差出シ埋葬免許證ヲ受ケテ之ヲ墓地監者寺院ニテ監

者ヲ兼ルテ墓

地ハ其院ニテ差出スヘシ

第五條 區役所局長役場ニ於テハ該届書員ノ死人ハ立會

書ヲ調査シテ埋葬免許證ニ記入シ此證ヲ死者ノ家人

ニ與フヘシ然シテ其醫師産婆ノ届書及ヒ檢斷證書ハ

毎月取纏メ郡區役所翌月五日限リ府廳ヘ差出スヘ

シ

第六條 患者ノ醫ヲ招カヌシテ死去セシ者及ヒ醫師若

クハ産婆ノ手ヲ經スシテ流産或ハ死胎分娩セシ者ア

リテ其届書ヲ請求スヘキ醫師或ハ産婆ナキ者ハ各受

持ノ郡區醫ニ就テ檢按ヲ乞フヘシ

第七條 郡區醫ハ前條ノ如キ者アレハ速ニ其家ニ至リ

テ死體ヲ檢按シ病死ハ第三號（略）流産或ハ死胎分娩ハ

第二號雛形ノ届書ヲ其家人ニ與フヘシ

第八條 埋葬免許證ナクシテ死者ヲ埋葬スルヲ許サス

第九條 墓地監者寺院ニテ監者ヲ兼ハ埋葬免許證ヲ證

三三三

第六十八條(刑、四、三)私有地外へ濫リニ家屋墻壁

ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者街路取締規則參照

第六十九條(全上)官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸

ニ床店等ヲ開キタル者全上

第七十條(全上)路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場

等ヲ毀損シタル者全上

第七十一條(全上)道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シ

タル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シ

タル者

七十二條(刑、四、二)官署ヨリ價額ヲ定メタル物

品ヲ定價以上ニ販賣シタル者

第七十三條(全上)渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定

價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨

ケタル者

○(參)道路橋梁渡津等ニテ公私ノ別無ク賃錢請求ノ義許

可致置候場所モ有之候處自今警部并巡查持區内巡視

ノ節制服用ノ者ニ限リ賃錢請求不相成候條此旨布

達候事全九年三月内務省甲第四號布達

○(參)人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津又ハ新道自今軍隊

々伍ヲ組ニ行進ノ節ハ其賃錢請求相成ラヌ候條此旨

布達候事全十三年四月東京府甲第二十八號布達

○(參)人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及開鑿ノ道路等憲

兵巡行ノ時ハ單騎獨歩雖ニ制服用ノ節ニ限リ其

賃錢請求相成ラス候條此旨布達候事全十四年十二月全

○(參照)人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及ヒ私費開鑿ノ道

路等郵便脚夫ノ飛信遞送并郵便物遞送集配ノ時ハ特

ニ配達人タルヲ證スル服ヲ着スル節ニ限リ其賃錢請

求相成ラス候條此旨布達候事全十五年三月全甲

第七十四條(全上)渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可

キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタ

ル者

第七十五條(全上)官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地

ニ放テ又ハ牧畜シタル者

第七十六條(全上)他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シ

タル者

第七十七條(刑、四二)橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可

キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

○諸川々ニ於テ舟筏繫キ方不都合ノ場所有之水路ヲ塞キ

通船ノ妨害不少趣ニ付狹隘ノ川筋ハ別ニテ繫キ方注意

致候様營業人ニ此旨可相達事全十年三月乙

第七十八條(刑、四三)水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ

妨害ヲ爲シタル者

第七十九條(全上)出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リ

ニ出入シタル者

第八十條(全上)通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シ

タル者

○陸軍省所轄戶山學校ニ於テ射的演習ヲ節射塚近傍ニ赤

旗ヲ揚ケ置キ右時間中ハ線内通行等不相成筈ノ處間々
不心得ノ者有之ニ付今般尙通路口々へ左ノ標札(略)ヲ建
設候旨全省ヨリ通知越候條爲心得一般へ告示スへ此
旨相達候事全十三
年九月
乙第八
號達

第八十一條(刑、四、二)路上ノ常燈ヲ消シタル者街路取
締規則

第八十二條(全、四)人家ノ墻壁ニ貼紙及ヒ樂書シ
タル者

第八十三條(全、五)邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家
賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル
者

第八十四條(全、六)他人ノ田野園圃ニ於テ茶菓ヲ

採食シ又ハ花卉ヲ折採シタル者

第八十五條(全、七)公園ノ規則ヲ犯シタル者

○上野公園地揭示農商
務省

第一 荷車其他總テ遊歩ヲ妨クヘキモノ且葬式等ハ屏風

坂通り山下通及ヒ辨天前通りノ外通拔ケスベカラス

第二 糞尿其他ノ穢物ハ山下通り辨天前通り及ヒ屏風

坂通りノ外運搬スヘカラス

但屏風坂通りハ日出ヨリ日没迄糞尿ヲ運搬スヘカ

ラス

第三 園内ニアル割烹店小憩所及ヒ屋臺店ノ外諸品ヲ

賣ルヲ許サス

第四 諸藝ヲ演スルモノ又ハ乞食ニ類似ノ者立入ヘカ

ラス

第五 車馬ハ車道ノ外人道及草原へ挽入へカラス

但車道内ト雖モ猥リニ逸走スへカラス

第六 馬車人力車ハ差置へキ標示アル場所ノ外ハ置へ

カラス

第七 木拾ヒノ者入ルへカラス

第八 草木ヲ堀リ取り又ハ木ノ實ヲ採リ枝ヲ折リ落

ル枝葉ヲ拾ヒ又ハ土石ヲ堀リ取へカラス

第九 魚鳥ヲ捕ルへカラス

第十 山林道路池溝等ニ塵芥ノ類ヲ棄ツへカラス

第十一 猥リニ焚火ヲナシ花火ヲ揚クへカラス

第十二 土手及ヒ樹木ニ登リ又ハ木石ヲ投クへカラス

第十三 草原并腰掛等ニテ睡眠スへカラス

第十四 園内遊歩ハ随意タリト雖モ園ヒ又ハ制禁ノ建

札アル標内へ立入ルへカラス

右之條々堅ク可相守者也

○今般各公園地内出稼假條例別紙之通相定候條自今右ニ

照準可取扱尤借地人へハ例ノ趣旨申關受書取置候様可

致候此旨相達候事全十一年十月
東京府番外達

東京府各公園地内出稼假條例

第一條 凡ソ公園地内ニ出稼セント欲スル者ハ建家築

造ノ摸樣等詳細圖面ヲ作り地所拜借ノ儀願出へキ事

第二條 本廳ニ於テハ詮議ノ上實地差支ナク且園内ノ

繁盛ヲ助クへキ者ト思量スレハ相當ノ借地ヲ許可ス

キ事

但公園ハ衆庶借樂ノ場所ナルヲ以テ建家ニ成丈ケ
不潔ヲ厭ヒ景色ヲ不損様注意可致建物落成ノ上ハ
掛リ官員ノ検査ヲ可受事

第三條 借地許可後三十日以内ニ現場着手セサル者ハ
直ニ返地セシムヘキ事

但借地料ハ居住ノ有無ニ拘ラズ第十二條ノ割合ヲ
以テ徵收スルシ

第四條 借地ノ内ダリトモ建物ヲ自儘ニ取擴クルハ勿
論模様替ト雖モ許可ノ上ニ無之テハ着手不相成事
但雨漏修繕ハ此限ニアラス

第五條 出稼ノ家屋ハ他住居同様垣牆ヲ周ラス等ハ固

ク不相成筈ナレモ實際不得止場合有之ニ於テハ出願
ノ上掛リ官員ノ差圖ヲ受クヘキ事

第六條 常住ノ出稼人ハ其人員姓名居住三日間ニ可届
出事

第七條 出稼常住人ノ外ハ一切宿泊不相成事

第八條 夜間ノ營業ハ當分午後十二時限リノ事

第九條 借地内ト雖モ立木ハ其大小ヲ不論伐採或ハ植
替等一切禁止候事

但私費ヲ以樹木植栽致度節ハ此時々可伺出事

第十條 借地内ハ勿論其近傍ト云トモ借地人ニ於テ時
々草取掃除致マ不潔ナラサル様注意可致事

第十一條 借地内ノ溝渠ハ塵芥ヲ棄テ或ハ淤泥ヲ停滯

セシムル等大ニ健全ヲ害スルヲ以各自深ク注意シ毎月一回出稼人申合掃除スヘシ且強風ノ節本勿論常ニ往來へ水ヲ灑キ塵埃飛散セサル様可致事

第十二條 借地料ハ十五日以前許可ノ者全月分十六日以後許可ノ者下半年分ヲ上納可致事

第十三條 借地料ハ毎月廿八日限り無相違區務所へ可差出事

第十四條 地所借用ノ儀一旦許可スト云トモ園中ノ都合ニ依リ引拂ノ儀相違候節ハ其種類ニ應ジ日數廿五日以上五十日以内ニ建家取毀ヲ元形へ直シ返地可致事

第十五條 借地ヲ轉貸スルハ嚴禁スル故ニ私費建設ノ家屋賣買ハ本人ノ自由ニ任スト云トモ其儘後住ノ者へ讓渡サント欲スルハ雙方連署ヲ以返地更借トモ速ニ可願出事

第十六條 園内ノ清潔ナルト家作ノ之ニ稱ヒ營業ノ其當ヲ得ルトハ最モ繁盛ヲ來ス所以ノ者ナレハ臨時出稼人集會協議ヲ取締方及ヒ實際有益ノ事業ト見込候件ハ區務所ヲ經テ府廳へ開申スヘキ事

第十七條 前條々之趣意ニ違背スル者ハ日數十日以上二十日以内ヲ限り引拂可申付事

○(照參) 上野公園地ニ義漸次整頓ニ趣キ候ニ付キ園内ニ於テ諸品立賣擔賣或ハ音曲等ヲ以錢ヲ乞フ者等有之候

テハ不體裁ノ至ニ付自今該園内ニ限リ右様ノ者一切
徘徊不相成候條此旨布達候事全九年四月東京府甲第五號布達

○(參照)上野公園地内貸地假條例博物局

上野公園地内貸地假條例

第一條

一公園地内拜借願濟ノ上建家築造ノ節ハ詳細圖面ヲ
以伺出許可ノ上ニ無之テハ着手其相成候事

但建物ノ儀ハ園中ノ雅致ヲ添景色ヲ不損様注意
可致且建物落成ノ上ハ掛リ官員ノ檢査ヲ可受事

第二條

一家屋建設ノ爲メ地所借用ノ儀許可スト雖園中位
置等改正ノ都合ニ依リ引拂ノ儀相達候節ハ其種類

ニヨリ日數二十五日ヨリ五十日間ニ建家取毀テ元
形ニ直シ返地可致事

第三條

一建物取毀テ或ハ建増又ハ建家共儘他人へ賣渡シ候
儀ハ許可ノ上取計可申事

但家屋ヲ讓リ渡スト雖從前ノ營業ヲ變換スヘカ
ラス

第四條

一公園地内ハ勿論拜借地ノ内立木大小ヲ不論伐木植
替等一切禁止ノ事但私費ヲ以テ樹木植足庭石据附
致度節ハ建家全様其時々可伺出尤建家取毀地所返
納ノ節ハ植付タル樹木共儘可差置且拜借地内ト雖

一 通常野菜畑ノ類ヲ取設ク取毀テ度節ハ其時々願出許可ヲ可受候事

第六條

一 建物内外椅子腰掛等ヲ散布スル近傍及便所等不潔無之様掃除注意可致事

第七條

一 割烹店中家族料理人及ヒ常住雇人ノ外止宿禁止

第八條

一 小憩所ニ參番人ノ外止宿人一切禁止

第九條

一 割烹店ノ外小憩所ニ於テ酒肴販賣等不相成既菓子菓物銘酒類ヲ賣ル者シカラサル事

但遊觀人ヲ携來ル辦當等ヲ飲食セシムルハ妨ケ

第十條

一 割烹店ノ外小憩所内ニ於テ琴棋書畫會等品行正シキハ雖不苦音曲器等設ク置遊觀人ニ貸シ與ハ候儀ハ不相成事

第十一條

一 割烹店其他小憩所等ニ於テ遊觀人ニ接スル者ハ風儀品行正シキ者ヲ精撰可差置且遊觀人ヲ猥ニ喚

呼抑留等ナス可カラサル事

第十二條

一園中借地人ハ地域ノ分限ニ應シ相當ノ賦金ヲ課ス

ヘキ事

但賦金ノ儀ハ一ヶ月一坪ニ付金五錢ト相定候事

尤建家ニ限ラス全ク庭回リニ相用候爲メ門戸ヲ

設ケ諸人ノ通行ヲ止メ候地坪モ同様賦課スルモ

ノトス

第十三條

一賦金ハ土地拜借家屋新築スルモノ及ヒ從來ノ家屋

ニ建増スルモノハ工事着手ノ日ヨリ地所返納ハ取

拂濟ノ上日ヲ限り日割ヲ以テ上納可致事

第十四條

一賦金上納ノ日限ハ毎月廿五日ト定メ全日無相違上

納可致尤同日休暇ニ當リ候節ハ翌廿六日上納ノ事

第十五條

一一般ノ法度禁令ハ勿論前條背悖スル者ハ直ニ引拂

可申付候事

右ノ條々堅ク相守可申候也

年月日

博物局

前條被仰渡ノ趣決ノ違背仕間敷候因茲此段御請申上

候也

宿地宿	所所所	拜借人	姓名	印
保證人			姓名	印

○(參照)公園箇所左表ノ如シ

博物局長町田久成殿

公園地 明治十五年六月東京府調

名稱	地名	沿革
上野	下谷區上野	東叡山寛永寺境内ナリシ處明治六年十一月公園地ト定メラル
芝	芝區芝	三緑山増上寺境内ナリシ處全年一月全上
淺草	淺草區淺草	金龍山淺草寺境内ナリシ處全年全月上
同附屬地	同上	同上及領地ナリシ處明治九年十二月向フ十ヶ年附屬地トナル
深川	深川區深川	富岡八幡社境内ナリシ處明治六年一月公園ト定メラル
飛鳥山	北豊島郡飛鳥山	人民遊観場ナリシ處全上
麴町	麴町區永田町	日枝神社境内ナリシ處明治十四年六月全上

第八十六條(刑四二) 第九十八) 通路ナキ他人ノ田畝ヲ通行

シ又ハ牛馬ヲ牽入シタル者

第八十七條(警七) 神佛祭典等ノ節強テ出費ヲ促シ

タル者

第八十八條(全上) 強テ合力ヲ申掛ケ若クハ物品

ヲ押賣シ其他種々ノ所爲ヲ以テ他ニ妨害ヲ

爲シタル者

第八十九條(全上) 工事等ノ際雇使スル者ヲ故障

シタル者

第九十條(全上) 海藻魚類等ノ干場ヘ妨害ヲ爲シ

タル者

第九十一條(全上) 制限ニ背キタル筏ヲ河川ニ浮

へ又ハ運漕シタル者

○當府癸酉年坤第百廿九號布達府下川々往來ノ筏制限ノ義今般更ニ左之通改正候條此旨布達候事全七年一月東京府第七號布達

一大小川々ノ區別ナク筏長十五間幅二間ト相定候事但本文制限ノ以下ハ自由ニ任候事

一川筋途中暫時休憩ハ凡一時間又ハ河岸場へ陸揚ス三時間ト相定候得共第六大區中小名木川六間堀川ヲ除クノ外通船ノ妨碍ニ不相成河岸ハ格別ノ事

一橋梁杭木ニ妨ケ致間敷或ハ通船差支相成候箇所へ狼リニ繫キ候義不相成候事

第九十二條(警十) 濫リニ川中へ杭木ヲ打建テタ

ル者

○舟筏繫留其他ノタメ猥ニ川中へ杭木打建候儀不相成候條自今可打建ノ事由並圖面添警視本署へ可願出此旨布達候事全三十一年六月甲第三十九號布達

第九十三條(警十) 外國人ヲ私ニ止宿又ハ雜居セ

シタル者

○(照參)本年甲第二十號ヲ以テ違式罪目第十四條改王布達候ニ付テハ外國人遊步規程内ニ於テ止宿セシメ候儀

ハ明治八年十一月八日東京府達ノ通可相心得尤届出ノ義ハ其都度國號人名等取調所轄警視分署へ可差出若シ病氣療養ノ爲メ永ク止宿セシメ候節ハ尙日數七日毎ニ其段同署へ届出候様旅人宿渡世ノ者へ可達置

此旨相達候事乙全十一年三月
但本文届出方ニ付自然本人ノ迷惑ニ不相成様注意
可爲致事

第九十四條(全上十六)各所ニ榜示セル禁條ヲ犯シタル者

第九十五條(全上十八)紙屑拾ヒノ者官ノ檢印アル名札ヲ貸借シ又ハ其記名ヲ變更シ若クハ名札ヲ屑籠ニ表出セサル者

○紙屑拾ヒノ者自今左離形(略)ノ木札ヲ添へ其區戸長ノ與印ヲ以テ警視本署へ願出檢印ヲ受ケ必ス携提ノ紙屑籠へ表出可致此旨布達候事全三十五年四月甲

第九十六條(警十)旅人宿ニ於テ郷貫氏名ヲ詐稱

シタル者

正誤

三三丁四行

〔二〕ノ上〔ハ〕ヲ脱ス

一一一丁十一行

〔馬〕ノ下〔車〕ヲ脱ス

一三二丁二行

〔キ〕〔ハ〕〔キ〕ノ倒置

一四一丁八行

〔皮〕ハ〔布〕

一四四丁

〔石油取締規則〕ノ全文衍

一四七丁七行

〔鳥〕ノ上〔者〕ハ衍

三〇七丁一行

〔内〕ノ下〔ノ〕ハ衍

三三六丁七行

〔其〕ハ〔不〕

以上

明治十六年二月十六日出版版權屆

警視廳御用書物師

定價金六十錢

發兌人

東京日本橋區西河岸町十二番地
須原鐵二

賣

同通壹丁目十五番地
北島茂兵衛

同淺草區茅町貳丁目

北澤伊八

同日本橋區吳服町十二番地

坂上善七

同通三丁目

丸屋善七

弘

東京京橋區銀座四丁目

博聞本社

西京寺町通り四條上

田中治兵衛

書 兵庫縣御用書林

熊谷幸助

神戶相生橋東詰

大坂高麗橋二丁目二十三番地
同 支店

同心齋橋筋南久寶寺町

前川善兵衛

同本町四丁目

岡島真七

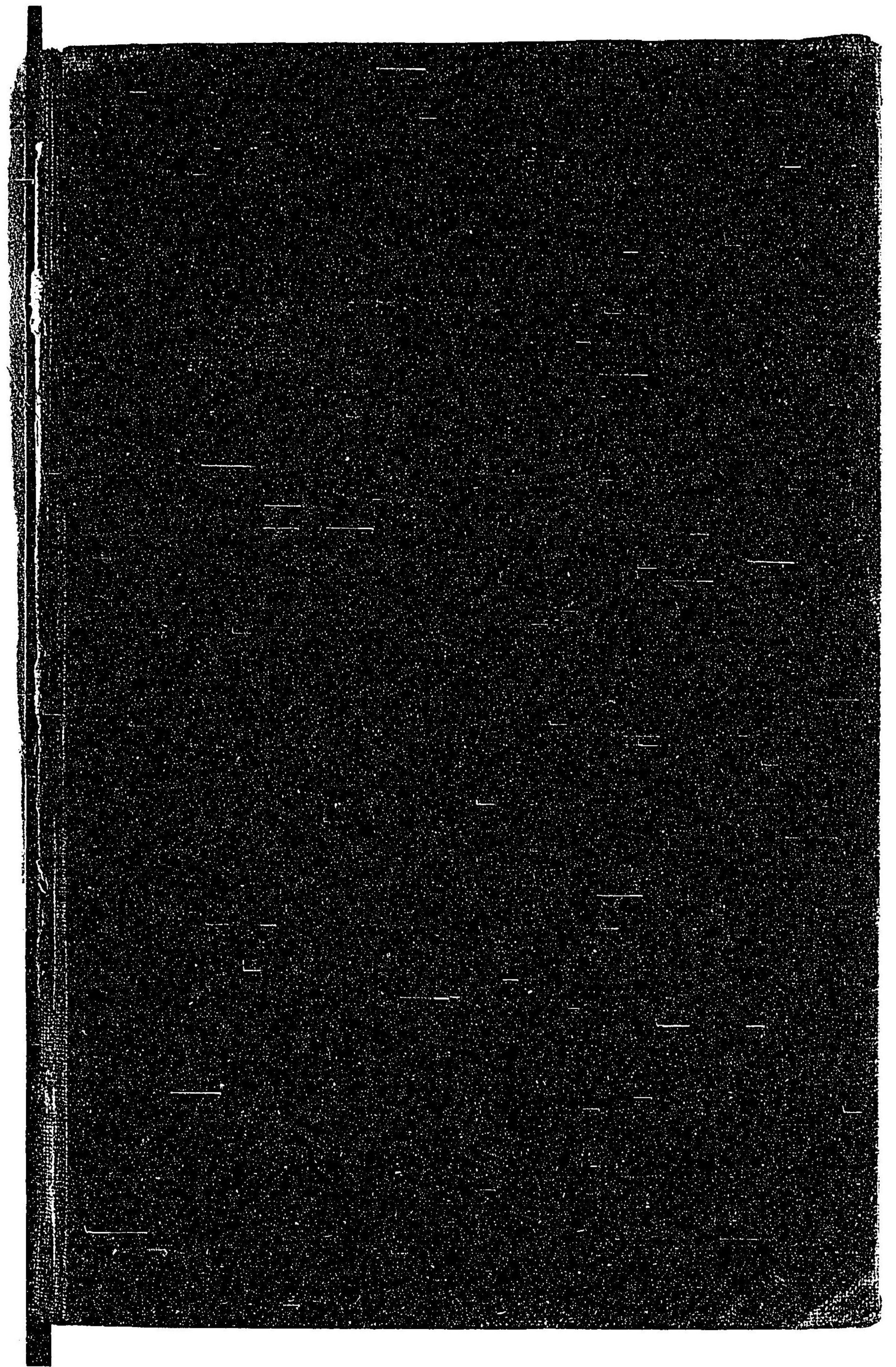
東京京橋區元救寄屋町四丁目

稻田活版所

肆

印刷

26
219





035470-000-7

26-219

違警罪処方便覧

警視庁規則課/編

M16

BBP-0006



